

**教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価**

**( 平成27年度対象 )**

**報 告 書**

**平成28年8月**

**大分市教育委員会**

# 目次

## はじめに

1	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての 点検及び評価の実施について	1
2	報告書の見方	2
3	大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係	4

## 第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

1	教育委員会の活動及び運営状況	
(1)	教育委員会の構成員	5
(2)	教育委員会会議の開催状況	5
(3)	教育委員会会議での審議状況	5
(4)	大分市総合教育会議	9
(5)	その他活動状況	9
2	「大分市教育ビジョン」点検・評価結果	
	重要施策の体系	12
1	豊かな人間性の創造	
(1)	幼児期における教育の充実	13
(2)	学校教育の充実	16
(3)	社会教育の推進と生涯学習の振興	23
(4)	青少年の健全育成	26
2	人権を尊重する社会づくりの推進	28
3	個性豊かな文化の創造と発信	30
4	スポーツ・レクリエーションの振興	34
5	本市教育を推進する教育委員会の充実	37

## 第Ⅱ章 学識経験者による意見

仲嶺	まり子	別府大学短期大学部副学長兼学長補佐	39
山崎	清男	国立大学法人大分大学教職大学院特任教授	40
吉山	尚裕	大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科教授	41

## はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正がなされ（平成20年4月施行）、各教育委員会において、法の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

大分市教育委員会では、平成20年5月に本市教育行政の方向や施策を明らかにする「大分市教育ビジョン」を策定し、学校、家庭、地域社会が連携し、一体となった教育の推進を図っています。平成23年度に、前年度までの事業の進捗状況、国や県の動向、社会情勢を踏まえ、具体的な施策や指標等の見直しを行い、第Ⅱ期基本計画を策定しました。

こうした取組の実施に当たっては、市民の皆様にも、その進捗状況を公表する中で、各々の施策が確実に実施されているか、どのような成果があるかなどを点検・評価することにより、教育行政の改善を図るとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが重要であると考えています。

そこで、本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の取組状況をもとに、「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」を行い、ここに報告書をまとめました。

## 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について

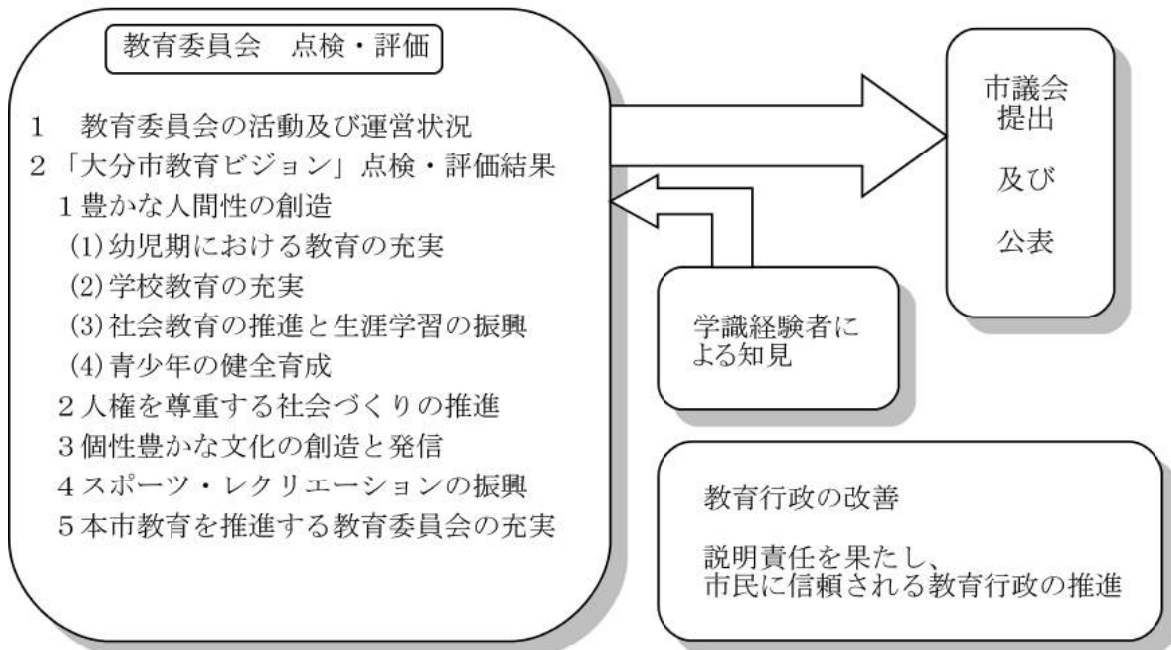
### (1) 目的

- ①大分市教育委員会が行う教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を実施することにより、教育行政の改善を図る。
- ②点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを大分市議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

### (2) 実施方法

- ①点検・評価は、教育委員会の活動及び運営状況並びに「大分市教育ビジョン」に示す施策を対象とする。
- ②点検・評価を行うに当たり、客観性及び透明性を高めるため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ③教育委員会は、点検・評価の結果を取りまとめた報告書を作成し、大分市議会に提出するものとする。また報告書は公表する。

### (3) 点検・評価のイメージ



## 2 報告書の見方

本報告書は、次の2つの内容（第Ⅰ章・第Ⅱ章）から構成しています。

### 第Ⅰ章 教育委員会の点検・評価

#### 1 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会会議の開催状況、教育委員会会議での審議状況、その他活動状況等について記載しています。

#### 2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果

重点施策について、以下の項目立てから点検及び評価をしています。

##### 【1】目標

##### 【2】取組の進捗状況

「重点施策」の実現に向けて展開している「具体的な施策」について、「27年度実績」「27年度の進捗状況」を記述するとともに、A～Dの4段階評価を行っています。また、具体的施策のまとめりに「成果と課題」、「今後の取組の方向性」を記述しています。

##### <評価基準>

A・・・28年度指標達成に向け、計画どおり順調に進んでいる。

(指標達成は、可能、または、指標達成をした)

B・・・28年度指標達成に向け、概ね計画どおり進んでいる。

(指標達成は、ほぼ可能である)

C・・・28年度指標達成に向け、計画がやや遅れている。

(指標達成は、難しく改善策が必要である)

D・・・28年度指標達成に向け、計画が大幅に遅れている。

(指標達成は、極めて困難であり、計画の見直しが必要である)

※ 事業を終了した施策については、終了後の評価は行わない。(評価の欄は斜線)

<成果や課題（成果● 課題▲）>

成果を●で、課題を▲で表記しています。

<今後の取組の方向性及び改善策>

成果や課題を踏まえ、次年度以降の取組の方向性と改善策を記述しています。

【3】参考

各施策についての市民の声やアンケート結果などを記載しています。

第Ⅱ章 学識経験者による意見

点検・評価に当たっては客観性及び透明性を高めるため、教育に関し学識経験を有するの知見を活用しています。

ご意見等をいただいた方々は、次のとおりです。

(50音順 敬称略)

氏 名	所 属 等
仲嶺 まり子	別府大学短期大学部副学長兼学長補佐
山崎 清男	国立大学法人大分大学教職大学院特任教授
吉山 尚裕	公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科教授

参考 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

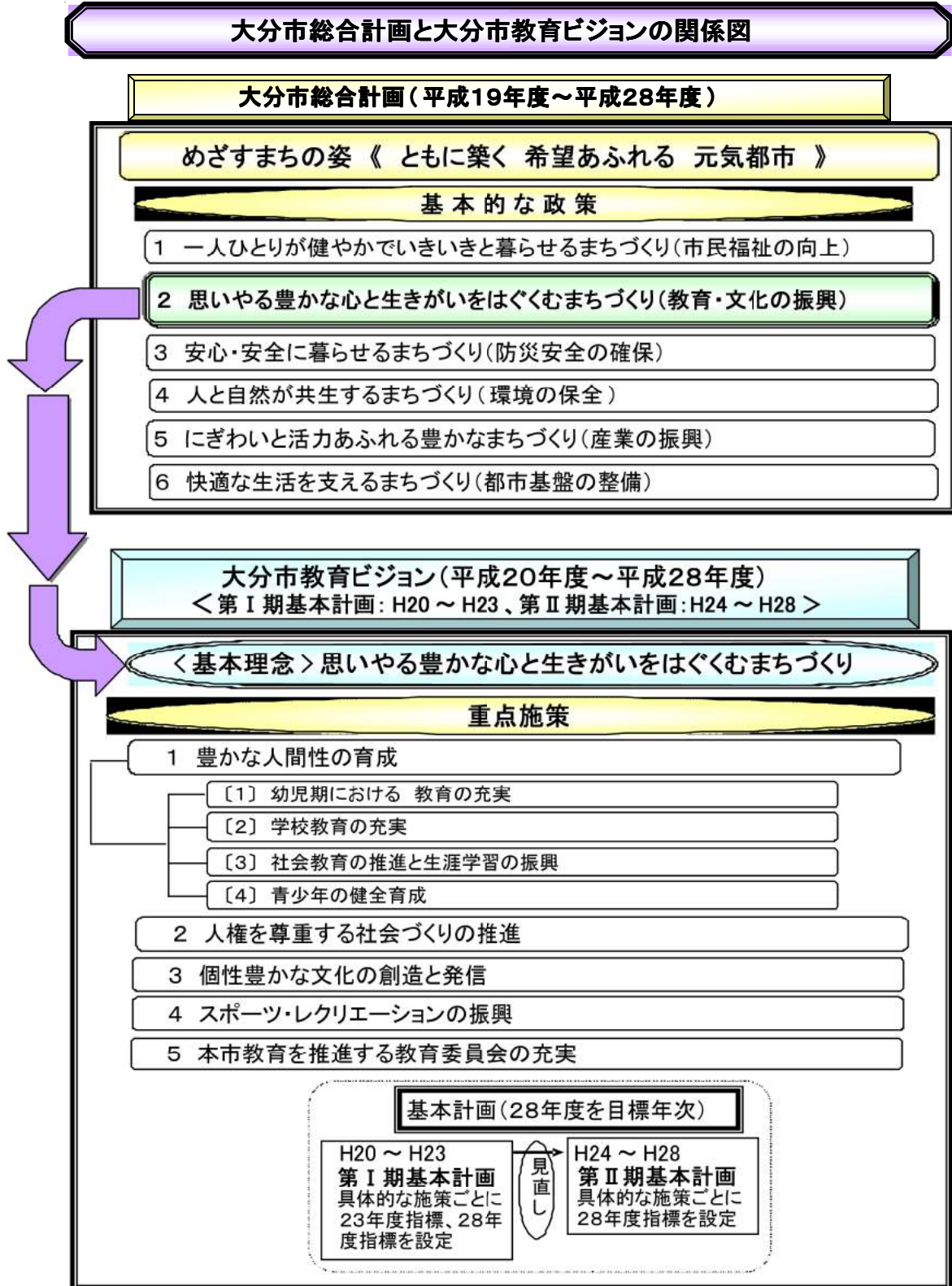
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※ 本市教育委員会では、「大分市教育ビジョン」の年度ごとの進捗状況の評価も兼ねて、毎年度、本報告書を作成しております。

### 3 大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係

「大分市教育ビジョン」は、本市の最上位計画である「大分市総合計画（平成19年度～平成28年度）」の基本理念を受け、『ともに築く 希望あふれる 元気都市』の実現を教育の分野からめざす実施計画として位置付けています。

大分市総合計画と大分市教育ビジョンとの関係は以下のようなイメージです。



※ 新たな大分市教育ビジョンについては、新総合計画の内容を踏まえ平成28年度中に策定することとしています。

## 第 I 章 教育委員会の点検・評価

### 1 教育委員会の活動及び運営状況





## 1 教育委員会の活動及び運営状況

本市教育委員会は、策定した「大分市教育ビジョン」の基本理念の実現に向け、明日の大分を担う人材育成と郷土の豊かな伝統・文化を推進し、本市教育の振興に努めています。

こうした中、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、60年ぶりに教育委員会制度が見直されました。これは、教育委員長と教育長を一本化し新教育長とすることで地方教育行政における責任体制を明確化すること、教育委員会の審議内容の充実、民意を代表する地方公共団体の長との連携強化等を目的としたものです。

教育長及び教育委員は、毎月の定例の会議や臨時の会議のほか、今回の法律改正を受け新たに設置された、市長との協議調整の場となる「大分市総合教育会議」への出席、最新の教育情報等に関する研修会への参加、学習会の開催、学校訪問、施設の視察、さらに校長との教育懇談会を開催するなどして自己研修・情報収集を行う中で、幅広い視点からの議論並びに積極的な活動を次のとおり行ってきました。

### (1) 教育委員会の構成員

(H28.3.31 現在)

職名	氏名	就任年月日	現任期
教育長	三浦 享二	H27. 5. 14	H27. 5. 14～H30. 5. 13
委員	角山 光邦	H19. 12. 17	H25. 7. 8～H29. 7. 7
委員	小林 達也	H20. 3. 26	H24. 7. 9～H28. 7. 8
委員	大久保 真理子	H23. 5. 14	H27. 5. 14～H31. 5. 13
委員	上杉 美穂子	H26. 6. 28	H26. 6. 28～H30. 6. 27

### (2) 教育委員会会議の開催状況

原則として毎月1回の「定例会」、必要に応じて「臨時会」を開催します。

平成27年度は、合計で20回開催しました。

- ① 教育委員会定例会議・・・12回
- ② 教育委員会臨時会議・・・8回

### (3) 教育委員会会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大分市教育委員会所管事務委任規則」の規定に基づき、平成27年度は合計で83件について審議を行いました。

- ① 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・・・・・・ 6件
- ② 事務局職員及び教職員の人事・・・・・・・・・・・・・・・・ 13件
- ③ 教育委員会規則の制定又は改廃・・・・・・・・・・・・・・・・ 12件
- ④ 教科用図書の採択・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1件

- ⑤ 奨学生の選定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2件
- ⑥ 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・・・ 13件
- ⑦ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価・・ 1件
- ⑧ 予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見申出・・ 23件
- ⑨ その他教育に係る事務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12件

平成27年度教育委員会審議案件等一覧（分類欄は、上記分類によるものです。）

番号	件名	提出日	分類
1	県費負担教職員の処分の内申について	4月13日	②
2	県費負担教職員の処分について	4月13日	②
3	大分市学校支援センター管理規則の一部改正について	4月30日	③
4	公有財産の用途廃止等について	4月30日	⑨
5	大分市学校医等公務災害補償認定委員会委員の任命について	4月30日	⑥
6	大分市スポーツ推進委員の委嘱について	4月30日	⑥
7	大分市スポーツ推進審議会委員の任命について	4月30日	⑥
8	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	4月30日	⑥
9	平成27年度大分市奨学生の決定について	5月19日	⑤
10	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命について	5月19日	⑥
11	教育委員会職員の人事異動について	5月25日	②
12	中学校教科用図書の採択に係る大分市教科用図書選定委員会委員の委嘱及び任命について	5月27日	⑥
13	大分市民図書館協議会委員の委嘱及び任命について	5月27日	⑥
14	大分市社会教育委員の委嘱及び任命について	5月27日	⑥
15	大分市公民館運営審議会委員の委嘱について	5月27日	⑥
16	平成27年度6月補正予算について	6月24日	⑧
17	大分市教育委員会教育長の退職手当の額について	6月24日	⑧
18	大分市奨学生選考委員会委員の委嘱について	6月24日	⑥
19	大分市指定有形文化財の指定について	6月24日	⑨
20	平成26年度補正予算（平成27年3月31日付市長専決処分）について	6月24日	⑧
21	大分市美術館協議会委員の任命について	6月24日	⑥
22	教育委員会事務局職員の処分について	7月23日	②
23	平成28年度使用教科用図書の採択について	7月23日	④
24	教育委員会事務局職員の処分について	7月30日	②
25	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	7月30日	⑦
26	工事請負契約の締結について（碩田中学校区新設校建設工事）	7月30日	⑧
27	工事請負契約の締結について（碩田中学校区新設校給排水衛生設備工事）	7月30日	⑧
28	工事請負契約の締結について（碩田中学校区新設校空気調和設備工事）	7月30日	⑧
29	工事請負契約の締結について（碩田中学校区新設校電気設備工事）	7月30日	⑧
30	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	7月30日	⑥
31	平成27年度行政評価・実施計画について	7月30日	①
32	平成26年度決算について	8月26日	⑧
33	公有財産の用途廃止について	8月26日	⑨
34	平成28年度大分市立学校の廃校について	10月28日	⑨
35	大分市立小学校設置条例の一部改正について	10月28日	⑧

36	大分市立幼稚園条例の一部改正について	10月28日	⑧
37	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	10月28日	③
38	大分市立学校職員の勤務時間及び休日休暇等に関する条例の一部改正について	11月20日	⑧
39	大分市立学校職員の給与に関する条例の一部改正について	11月20日	⑧
40	大分市立学校職員の給与等に関する特別措置条例の一部改正について	11月20日	⑧
41	平成28年度当初予算要求について	11月20日	⑧
42	大分市教育委員会組織条例の制定について	11月20日	⑧
43	平成27年度12月補正予算について	11月20日	⑧
44	平成27年度県費負担教職員の人事評価について	11月20日	②
45	大分市営温水プールに係る指定管理予定者の決定について	11月20日	⑧
46	アートプラザに係る指定管理予定者の決定について	11月20日	⑧
47	県費負担教職員の処分の内申について	12月16日	②
48	県費負担教職員の処分の内申について	12月16日	②
49	県費負担教職員の処分について	12月16日	②
50	大分市教育委員会に係る大分市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例施行規則の一部改正について	12月16日	③
51	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	12月16日	③
52	平成28年3月末教職員定期異動方針について	12月16日	②
53	大分市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について	12月16日	⑥
54	大分市指定有形文化財の指定について	12月16日	⑨
55	公有財産の所管換について	12月16日	⑨
56	大分市立学校職員の給与の支給等に関する規則等の一部改正について	12月21日	③
57	神崎中学校区適正配置実施計画の策定について	1月27日	①
58	平成28年度大分市学校教育指導方針について	1月27日	①
59	公有財産の取得の申出及び取得後の所管換について	1月27日	⑨
60	公有財産の取得について	1月27日	⑨
61	平成27年度3月補正予算について	2月24日	⑧
62	平成28年度当初予算について	2月24日	⑧
63	義務教育学校制度の導入にかかる方針決定について	2月24日	①
64	平成27年度未来自分創造資金奨学生決定について	2月24日	⑤
65	大分市公民館長の任命について	2月24日	②
66	大分市立学校職員の給与に関する条例等の一部改正について	2月24日	⑧
67	大分市立少年自然の家条例の一部改正について	2月24日	⑧
68	大分市立幼稚園条例の一部改正について	2月24日	⑧
69	大分市立幼稚園規則の一部改正について	2月24日	③
70	大分市奨学資金に関する条例施行規則の一部改正について	2月24日	③
71	大分市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	2月24日	③
72	野津原中学校区適正配置実施計画の策定について	2月24日	①
73	公有財産の用途廃止について	2月24日	⑨
74	公有財産の所管換について	2月24日	⑨
75	大分市子どもの読書活動推進計画（第三次）の策定について	2月24日	①
76	大分市立学校施設管理規則等の一部改正について	3月14日	③
77	県費負担教職員の人事異動の内申について	3月14日	②
78	教育委員会職員の人事異動について	3月24日	②
79	大分市立学校職員の通勤手当の支給に関する規則の一部改正について	3月24日	③
80	大分市教育委員会所管事務委任規則及び大分市立学校職員の職務に専念する義務の特例に関する規則の一部改正について	3月30日	③
81	大分市立学校職員の給与の支給等に関する規則等の一部改正について	3月30日	③
82	市長の権限に属する事務の一部の補助執行に関する協議について	3月30日	⑨
83	教育財産の用途廃止について	3月30日	⑨

※審議案件のほか、協議事項及び報告事項についても取り扱いました。

協議事項

件 名	件 数
教育長職務代理者の指名について	1 件

報告事項

報 告 内 容	件 数
市議会関係について	1 4 件
小中学校適正配置基本計画について	1 2 件
教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について	1 件
行事報告	6 件
その他	4 5 件
	計 7 8 件

#### (4)大分市総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により設置された「大分市総合教育会議」において市長と協議を行い、教育施策の課題や方向性を共有しました。

平成27年度は5回開催され、平成28年2月には、本市の教育の目標や施策の根本的な方針となる「大分市教育大綱」を策定しました。

	協議内容	開催日
第1回大分市総合教育会議	大分市総合教育会議の運営について 大綱の策定方針(案)について 大分市の教育施策の課題について	6月24日
第2回大分市総合教育会議	市長部局と教育委員会の連携に関する課題について ・いじめ事案への対応について ・子どもの貧困対策について	8月31日
第3回大分市総合教育会議	大分市教育大綱(素案)について	10月30日
第4回大分市総合教育会議	大分市教育大綱(案)について	11月25日
第5回大分市総合教育会議	大分市教育大綱(案)に関する市民意見公募の結果について 大分市教育大綱(最終案)について	2月24日

#### (5)その他活動状況

教育委員会会議及び総合教育会議に出席するほか、協議会や研修会への参加、学校訪問、教育施設の視察及び行事への参加等の活動を行っています。

##### ①研修会等

概 要	時 期
学習会（教科用図書の採択について）	5月
平成27年度大分県市町村教育委員会連合会研修会（県教委と共催）	6月
学習会（総合教育会議、教科用図書の採択について）	6月
市町村教育委員会研究協議会	11月
学習会（神崎中学校区適正配置実施計画について）	11月
学習会（野津原中学校区適正配置実施計画について）	12月
学習会（義務教育学校について）	1月

② 懇談会

概 要		時 期
教育懇談会	目的	学校長等との意見交換を行い、教育現場の現状や課題等を把握する。  第1回テーマは、「地域との連携について」とし、小学校長6名と、学校現場における地域との連携のあり方に対する課題や今後の方向性について議論した。  第2回テーマは、「活用する力を身に付けさせる指導の在り方について」とし、中学校長6名と意見交換し、活用型の指導が重視されるようになった背景を確認するとともに、学校現場における指導のあり方に対する課題や今後の方向性について意識の共有を図った。  第3回テーマは、「外国語活動と英語科の導入について」とし、小学校長6名と意見交換し、人員配置、研修体制の確立、教育課程の作成など、学校現場における課題や今後の方向性について意識の共有を図った。  第4回テーマは、「次世代育成について」とし、小学校長6名と意見交換し、今後10年間で半分以上の教職員が入れ替わると想定される中、新採用職員への指導や研修の方法など、学校現場における課題や今後の方向性について意識の共有を図った。
	内容	
		第1回 8月 第2回 9月 第3回 10月 第4回 1月

< 教育懇談会の様子 >



③ 学校訪問

概 要		時 期
松岡幼稚園 松岡小学校 大在小学校 高田小学校	目的	学校現場の実態・実情を把握するため、授業参観や学校長との意見交換等を行うことで、教育委員の理解を深めるとともに、教育委員の視点で指導・助言を行う。  松岡幼稚園では、2年制保育の実施状況と、あわせて訪問した松岡小学校との幼小連携の取り組みについて確認した。また、松岡小学校では、外部講師による授業を視察した。  大在小学校では、新たに完成した校舎を視察するとともに、体育専科教員による体育の授業を視察した。  大分市基礎学力向上研究推進校に指定している高田小学校では、ホワイトボードを使用した授業など、特色ある取り組みを視察した。
	内容	
		10月 2月

< 学校訪問の様子 >



④ 教育施設の視察

概 要		時 期
県立総合体育館	目的	施設の实態・実情を把握するため視察を行った。 2月
	内容	
本市への移管が検討されている県立総合体育館を視察し、施設の現状や課題について確認した。		

< 視察の様子 >



⑤ 各種会議・行事等

(教育委員会の活動について広く市民に理解していただけるよう、行事への積極的な参加を行いました)

概 要	時 期
中学校入学式、小学校入学式、幼稚園入園式	4月
大分県市町村教育委員会連合会総会	6月
公開研究発表会	11月
平成27年度「おおいた教育の日」推進大会	11月
小学校卒業式、中学校卒業式、幼稚園卒園式	3月

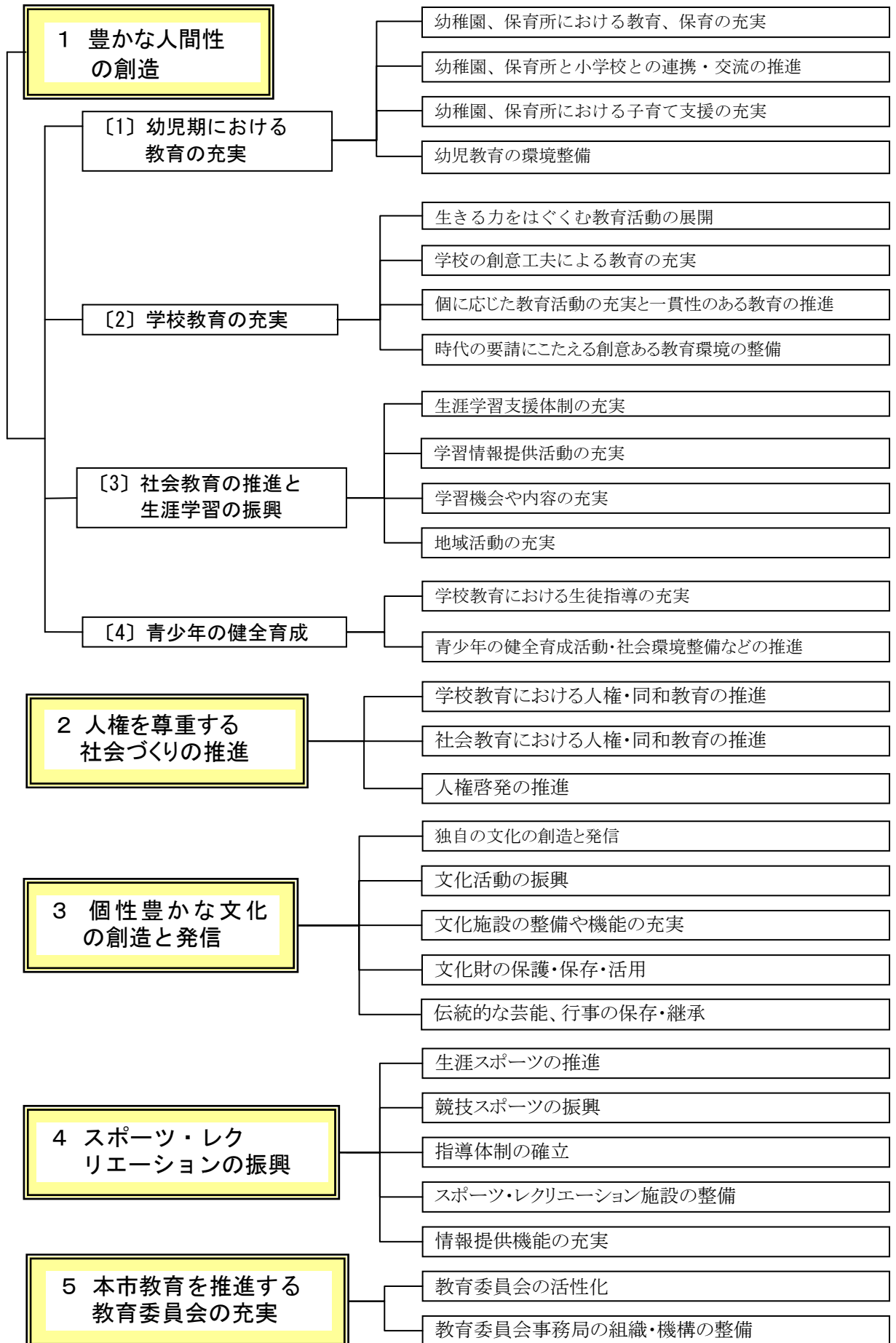




## 2 「大分市教育ビジョン」点検・評価結果



重点施策の体系（構成図）



## 重点施策 1 豊かな人間性の創造 (1) 幼児期における教育の充実

### 【1】 目標

○人間形成の基礎を築く幼児期の重要性、本市の幼児教育の実情などを踏まえ、義務教育への円滑な接続を図る保育内容の充実、子育て支援策など、幼児教育環境の整備に努める。

### 【2】 取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 幼稚園、保育所における教育、保育の充実</b>						
「大分市立幼稚園保育の手引き」の活用	活用の推進	策定	実施	評価・改善	各市立幼稚園の研修等において、本手引きに盛り込まれている具体的施策を示した「実践のポイント」等が、保育の工夫改善に生かされた。	A
幼稚園教諭と保育士などとの合同研修機会の提供	研修会の開設講座数	9講座	12講座	10講座	幼児教育から小学校教育への円滑な接続の推進を目的とした幼保小連携研修会をはじめ、教育相談研修や特別支援教育研修等、12講座の合同研修を開催した。	A
市立幼稚園への「専任園長制」の導入	専任園長制導入園数	5園	11園	拡大	市立幼稚園11園に専任園長を配置した。	A
市立幼稚園における特色ある園づくりの推進	地域との交流活動を取り入れた園の割合	91%	100%	100%	飼育・栽培活動等、地域との交流活動を取り入れるなど、全園で特色ある園づくりに取り組んだ。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b></p> <p>●大分市幼稚園教育研究会の研究テーマである「互いに響き合いながら、協同的な関係を創り出す子どもを育てるための環境の構成や援助のあり方」について、保育の手引きの「実践のポイント」が、研究協議や研究成果の分析に生かされた。また、幼保小連携に係る研究推進園においては、「知的好奇心の育成」「道徳性の芽生えの育成」「基本的な生活習慣の形成」に関する内容を参考にし、研究の充実を図った。</p> <p>●「大分市幼保小連携研修会」（約180名が参加）を実施し、本市における幼保小連携に関する内容を説明後、校区ごとに子どもの実態等に関する情報の共有を図るとともに、共通した指導内容等に各施設が協働して取り組むなど、各校区の実情に即した協議が行われた。</p> <p>▲幼稚園教員と保育士等とが、教育・保育に関する内容の情報共有や共通理解を深めるため、研修内容等の充実を図る必要がある。</p> <p>●栽培活動、茶道教室、昔の遊び、ボランティア団体との連携など、地域の人的、物的な環境を生かした特色ある教育活動が各園において実施された。</p> <p>●若手教員を対象に「幼稚園教員ステップアップ研修」を年5回実施し、保育指導、幼稚園運営等に関する専門的知識、技能の習得等に係る継続的な研修を通して、保育力の向上を図った。</p>						
<p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b></p> <p>○「大分市立幼稚園保育の手引き」については、今後、活用における評価や改善点を各園から集約したうえで、次期幼稚園教育要領改訂を目途に、全面的な改善・改訂を実施することが望ましい。</p> <p>○幼稚園教員と保育士等との合同研修については、教育・保育に関する研修内容を充実させていくとともに幼稚園教員や保育士等が同じ場で協議を行うなど、関係課である子ども保育課との連携を図りながら研修の運営方法も工夫していく。</p>						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>② 幼稚園、保育所と小学校との連携・交流の推進</b>						
大分市幼保小連携推進会議の設置・活用	設置と活用	関係各課協議実施	活用	活用	「大分市幼保小連携推進協議会」の協議内容に基づき、全ての校区に設置された連携推進協議会を活用するとともに、「幼保小連携に関する研究推進事業」を実施した。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●学識経験者や学校関係者、保護者代表等16名で組織する「大分市幼保小連携推進協議会」において協議された幼保小連携の進捗状況等に関する内容を生かし、校区ごとの連携推進協議会では、入学する子どもに関する情報の共有や、児童集会に園児を招待するなど子ども同士の交流の実施等、幼保小連携の取組の推進が図られた。 ●「幼保小連携に関する研究推進事業」では、研究推進園3園による公開研究発表会（延べ254名が参加）を実施し、公開保育、研究協議等を通して研究成果等を還元するなど、市立幼稚園が、地域における幼児教育のセンター的な機能を発揮している。 ▲幼保小連携のさらなる推進を図るため、席に着いて話を聞いたり給食エプロンを着用したりするなど、より体験的な小学校見学や、幼児と児童との交流活動等を充実させていく必要がある。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○幼児期における教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、市立幼稚園と小学校が中核となって実践を基盤とした教育研究に取り組み、その成果を他の幼稚園や保育所及び認定こども園にも広く発信するなどの取組が一層求められる。 ○「大分市幼保小連携推進協議会」から提言された、体験的な小学校見学の充実等の内容を、校区ごとの連携推進協議会へ発信し、幼保小連携の一層の推進を図る。						
<b>③幼稚園、保育所における子育て支援の充実</b>						
市立幼稚園における「預かり保育」の充実	一斉の「預かり保育」における実施回数	週1回	週2回	週2回	平成28年度実施予定を、1年前倒しし、週2回の預かり保育を全園で実施した。	A
私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援の充実	補助利用者数 (本事業は、年間をⅢ期に分けて実施しており、本指標は、Ⅰ期当たりの平均実利用者数である。)	448人	582人	600人	子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、補助対象者を私立の認定こども園の預かり保育利用者に拡大した。	A
市立幼稚園「子育て支援事業」の推進	各園の参加者総数 (事業に参加した保護者、幼児の総数)	17,119人	38,434人	18,000人	全園で、園舎・園庭開放や子育て相談等に取り組んだ。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●地域の実態や子どもの心身の負担、園の実情にも配慮する中で、市立幼稚園全園において週2回以上の全員を対象とした預かり保育と、希望者を対象とする随時の預かり保育を実施している。 ▲保護者のニーズを把握するため、市立幼稚園全園の保護者を対象としたアンケートを実施した結果、預かり保育の充実を求める声が多く、今後もその声に応えていく必要がある。 ●私立幼稚園の預かり保育利用者に対する支援を、認定こども園の1号認定子どもにも拡大したことにより、働きながら子どもを幼稚園等に通わせたいと願う保護者の経済的負担の軽減や保育所待機児童の減少の一助となっている。 ●各市立幼稚園が実施する「子育て支援事業」では、在園児との交流、子育て情報の提供等を積極的に行ったことにより参加者が増加している。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○園の実情に応じて実施している週2回以上、15時まで預かる「預かり保育」や保護者のニーズに対応した随時の預かり保育の充実に加え、平成28年度から専任職員を配置し17時30分まで預かる「一時預かり事業」をモデル園3園で試行したうえで、実施上の成果や課題を検証していくこととする。 ○地域人材等を活用した子育て相談・講演等を実施するなど、幼児教育のセンター的な機能の充実が求められる。						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>④ 幼児教育の環境整備</b>						
大分市幼児教育振興計画の実施と検証 (Ⅰ期=21~25年度、Ⅱ期=26~30年度)	実施と検証	Ⅰ期実施	※「当面の実施方針」の実施	※「当面の実施方針」の実施	※「当面の実施方針」に基づき、環境整備等、幼児教育の振興を図った。	D
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
●「大分市幼児教育振興計画の当面の実施方針」に基づき、保護者のニーズに応じた特色ある教育の充実のため、モデル園における「一時預かり事業」の実施に向けた検討を重ね、平成28年度より実施することとした。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○生きる力の基礎をはぐくむスタンダードな教育を充実する中で、幼児教育のセンター的な役割を明確にしたうえで、とりわけ週2回以上の預かり保育の全園実施、子育て支援活動の充実など、重点的に取り組むこととする。						

※当面の実施方針

新制度施行に伴い、市立幼稚園の園児数や私立幼稚園の認定こども園への移行状況等を見極め、今後の市立幼稚園のあり方を考えていく必要があることから、平成27年3月にⅡ期計画に代わって策定された。

### 【3】 参考

#### 【幼保小連携研修会—参加者の声—】

「今後、幼保小連携を推進していくうえで、どのようなことが必要だと考えているか。」に対する回答

- このような情報交換の場を増やしていくことが必要である。また、幼保間の交流が少ないので入学後の人間関係づくりのためにも、入学前の交流はとても大事だと思う。
- 情報交換だけでなく、各施設が出向いていき、互いの教育・保育の内容を知り、学ぶことが大切である。
- 連携を推進させていくには、組織づくりやシステム化が必要である。
- 園から、様々な校区の小学校に入学していくので、校区を越えた交流もできたらよい。
- 各施設の職員が自分の施設の情報を他の施設に積極的に発信していくことが大切である。
- あいさつなどの生活習慣に関して各施設が同じ目標を掲げ、見通しをもって教育・保育ができるとよい。



#### 【幼保小連携に関する研究推進事業—公開研究発表会参加者の声—】

「公開保育に関するご意見、ご感想をご記入ください。」に対する回答

- 自分たちで進んで準備をするなど、主体的に取り組む姿がたくさん見られた。意欲的に興味・関心をもって遊ぶことで、小学校になってからも、身のまわりの様々なことに進んで取り組んでいけるのではないかと感じた。
- 友だちが嬉しくなったら、自分も嬉しいという心の交流ができる声かけは、ますます友だちのことを思いやる子どもに育っていくだろうと思う。
- 遊びを通して体をどのように使うかという要素がたくさんあった。1つ1つチャレンジしていく中で、グループの友だちとのかかわりを多く見ることができた。



## 重点施策 1 豊かな人間性の創造 (2) 学校教育の充実

### 【1】目標

○学校教育においては、確かな学力の向上、心の教育の充実、健やかな体の育成に取り組み、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する教育の創造に努めるとともに、学校の教育力(「学校力」、教師の力量(「教師力」)を高め、子どもたちの「人間力」の育成をめざす。  
○家庭、地域社会および関係機関との連携の強化を図りながら、開かれた学校、信頼される学校づくりに努めるとともに、時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備充実に努める。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 生きる力をはぐくむ教育活動の展開</b>						
大分っ子基礎学力アップ推進事業の実施	指導主事の学校要請訪問	年3回	年6.1回	年5回	公開研究発表会や校内研修、学力向上会議等において、指導方法の工夫改善等について、指導・助言した。	A
	市・県主催の学力調査で全国平均以上の教科の割合	37.5%	82.1%	70%以上	県及び市が小・中学生を対象に実施した学力調査において、実施した28教科のうち、23教科が全国平均以上であった。	A
国際理解教育の推進と充実	小学校5・6年へのALT等の派遣	年間10回(月0.8回)	月2.0回	月2回	学校規模(学級数)を考慮して派遣計画を立て、全小中学校の英語及び外国語活動において活用した。	A
情報教育の推進と充実	情報教育に係る研修講座数	9講座	20講座	20講座	ICTを活用した授業展開や学習補助教材の利用、教材作成等、それぞれのスキルに応じた研修を企画する中、目標値の20講座を達成できている。	A
環境教育の推進と充実	環境教育研修会の受講者割合	66.1%	68.4%	70.0%	大分大学や関係諸機関等と連携し、環境教育研修をはじめ、初任者研修や10年経験者研修等で環境教育に係る研修を実施するなど、研修内容の工夫や研修機会の拡大を図る中、受講者割合が68.4%になっている。	B
読書活動の充実	全校読書タイム実施校の割合	98%	100%	100%	図書館担当者等を対象に、研究推進校の実践や一斉読書の取組等についての研修を実施することにより、学校の読書活動を推進した。	A
	児童一人当たりの年間貸出冊数	71冊	103冊	75冊	学校図書館支援員と図書館担当者等の連携の下、読書環境の整備等を進めたことにより、児童の読書意欲が向上し、図書館の利用が増加している。	A
	生徒一人当たりの年間貸出冊数	7冊	10冊	12冊	学校図書館支援員と図書館担当者等の連携の下、読書環境の整備等を進めたことにより、生徒の読書意欲が向上し、図書館の利用が増加している。	B

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
進路指導の充実	小・中学校における職場見学・体験実施校の割合	100%	100%	100%	全小中学校において職場体験や職場見学を実施し、望ましい勤労観、職業観の育成を図るなど、キャリア教育を推進した。	A
	キャリア教育コーディネーターの中学校への派遣	78%	89%	100%	中学校での職業講話の講師として、商工労政課との連携のもと、ヤングキャリアアドバイザーを派遣し、職業人を積極的に活用し、生徒の職業意識の向上を図った。	B
子どもの健康や体力の増進	新体力テストで全国平均以上の種目の割合	19%	73.6%	60%以上	継続的に指導主事や体育指導員が学校を訪問し各学校が作成した「体力向上プラン」による授業実践や、「大分っ子体力アップわくわく事業」等を実施し、体力向上への意識の向上と運動好きな児童生徒の増加を図った。	A
喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実	「薬物乱用防止教室」の開催	59校	87校	全小中学校	市保健所、市薬剤師会、県福祉保健部薬務室、警察署など関係機関に関する情報を提供。2学期に実施状況中間調査を行い、計画していない学校には、実施のお願いをした。	B
食に関する指導の充実	地産地消の取組〔学校給食の地元産食材の使用比率〕	42.4%	33.3%	45%	地産地消推進会議を毎月開催し、旬の地元産食材の計画的な使用を図っている。27年度は、天候不良等により、地元産食材の不足、価格高騰等の原因により食材使用量が低くなった。	B

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

- 大分っ子基礎学力アップ推進事業の実施については、学力調査の結果分析及び改善策等を記載した指導資料の作成、ホームページへの掲載、研究推進校の公開研究発表会における成果の還元、校内研究等への指導主事の積極的な派遣等により、教員の授業力の向上、指導方法の工夫改善が図られた。
- 情報教育研修では、事前にアンケートを取り、教職員のニーズに応じた研修内容や方法を工夫したり、指導上の困りにも対応できるよう臨時に放課後相談を行ったりしたことにより、受講者の満足度が高かった。
- 環境教育研修では、「環境教育を進めるに当たって、子どもたちに伝えること、意識させること、自分たちの生活を結び付けて行動に移させることなどの大切さを改めて感じた。」「大分市がどのような環境行政を行っているのかを知ることができた。ガイドブック等、学年に応じて使用していきたい。」などの感想が聞かれた。
- ▲中学校における学校図書館の蔵書の貸出冊数については、徐々に増加しているものの目標に達成しておらず、今後とも、学級での読書指導、各教科等での調べ学習、一斉読書の取組方法等を工夫し、一層の充実を図る必要がある。
- 体育・保健体育主任研修での実技講習や市内全小中学校への訪問指導等により、体力向上に対する意識が向上し平成27年度の新体力テストの結果は、全国平均以上の項目が144項目中106項目(73.6%)と大きく向上した。
- ▲中学校女子においては、アンケートの結果、運動に対してあまり好きではない、嫌いと回答した生徒が23%と前年度と比べ若干減少したが、さらに運動好きの生徒を増やすよう保健体育授業の充実を図る必要がある。
- ▲昨年度に引き続き、全学年において全国平均を下回った「50m走」については、体育・保健体育主任研修において「走力」の向上に特化した実技研修を行い改善を図る。
- 26年度に「薬物乱用防止教室」を、全小中学校で教育課程に位置付け、計画的に実施できた。
- ▲昨年度は2校が実施できなかった。非行の低年齢化もあり、「薬物乱用防止教育」の充実がさらに必要である。
- 子どもたちが栄養のバランスを考え適切な選択を行い、望ましい栄養や食事のとり方を理解し自ら管理していく能力を身に付けるため、セレクト給食やバイキング給食、弁当の日を実施している。
- 保護者を対象とした給食試食会を開催し、学校と家庭との連携を図るとともに、講話等で朝食の大切さなどを伝えることで、家庭での食育のきっかけづくりをしている。
- ▲学校給食における地元産食材の使用にあたっては、地域の生産力や供給力、価格と給食費の問題などがある。



**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○読書活動の充実については、平成25年度から図書館支援員6名を増員し、合計50名を配置しており、今後も学校図書館支援員と図書館担当者等の連携の下、児童生徒の読書環境を充実させるとともに、国語の他、社会、理科、総合的な学習の時間等において、図書館の本を積極的に活用したり、全校読書タイムで図書館の本を活用したりするなど、学校教育全体における読書活動の一層の推進を目指す。

○ICTを効果的に活用し、授業に生かすことのできる教職員を育成するため、それぞれのスキルに応じた研修内容を企画する。

○体育・保健体育主任研修において「走力」の向上に特化した実技講習を実施し、教職員の指導力向上を図る。

○「大分っ子体力アップわくわく事業」について中学校での活用を拡大し、保健体育の授業の充実と運動好きの生徒の増加を図る。

○「薬物乱用防止教室」開催にあたり関係機関から講師を招聘する場合は、事前協議を十分に行い、児童生徒の実態に合わせた指導の工夫や内容の充実を図る。

○学校給食での地元産食材の使用に努め、毎月19日前後の「おおいた産給(サンキュー)の日」の周知を図るとともに、食に関する全体計画、年間指導計画に沿って、栄養教諭・学校栄養職員の専門性を生かした食に関する指導の充実を図る。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		

**② 学校の創意工夫による教育の充実**

各種教育活動における地域の人材活用	学校教育支援員等の活用人数	740人	1,382人	1,000人	「生き生き学習サポート事業」において、学校教育支援員及び地域人材の活用を支援することにより、地域と学校が一体となった多様な学習活動を展開した。	A
地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくり	学校評議員研修会の開催日数	2回	2回	2回	評議員の役割、学校関係者評価の在り方、各校の取組等について研修を行い、学校評議員制度の充実を図った。	A
	学校ホームページの更新	年3回	月14回	月2回	ホームページの更新方法等、相談しやすい環境づくりを継続したことにより、各学校において定期的な更新がなされている。	A
	学校ホームページのアクセス数	年間236,000回	年間915,954回	年間400,000回	各学校においてホームページの更新を定期的に行っているため、アクセス数が増加した。	A

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

●地域の人材活用については、「生き生き学習サポート事業」により、学校教育支援員及び地域人材を活用した地域と一体となった学習活動が推進されるとともに、専門的な指導を通し、子どもの技術・技能や学習意欲の向上が図られた。

●ホームページの更新方法についての指導助言や、相談体制を確立させたことにより、定期的な更新及びアクセス数の増加につながり、保護者や地域等への情報発信の活性化が図られた。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○地域の人材活用については、各学校は、「生き生き学習サポート事業」の活用以外にも、学習支援をはじめ様々な教育活動に地域の方々のボランティアとしての協力を得ている。学校教育支援員及び地域の方々の学校教育への理解と協力に感謝の意を表しながら、今後は、ボランティアを促進し、地域とのつながりを深め、広げていくことが必要である。

**③ 個に応じた教育活動の充実と一貫性のある教育の推進**

特別支援教育の充実	巡回教育相談の実施(年間)	6回	8回	10回	巡回教育相談について、市報やホームページで広く呼びかけるとともに、各幼小中学校へ周知し、巡回教育相談を年間8回実施した。	A
小中学校の一貫性のある教育の推進	小中一貫教育モデル中学校区の指定	1中学校区	11中学校区	10中学校区	11中学校区のモデル校において、小中一貫教育の在り方について研究を推進するとともに、公開研究発表会を開催し、その成果を他校に還元した。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●障がいのある幼児の保護者とその関係者に対して、年8回の巡回相談を実施し、就学手続きや家庭での子どもへの接し方等、のべ69件の相談に応じることができた。また、土曜日にも実施したことで、平日、利用しにくい方の相談にも対応することができ、相談件数が増加した。(H26:48件、H27:69件)

●小中一貫教育校の賀来小中学校、連携型の小中一貫教育モデル校の10中学校区(32校)において、公開研究発表会等を開催し、研究成果を全市に還元した。また、市内全中学校区において、教職員の合同研修会や児童生徒の合同行事を実施するとともに、中学校区の学習・生活のきまりを作成し指導に生かすなど、学校・地域の実情に応じた小中一貫教育の取組が進んだ。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○大分市教育センターエデュ・サポートおおいたの臨床心理士やスクールソーシャルワーカー、相談員等の専門性をいかし、特別支援教育等に係る相談・支援、指導・助言、研修等を通して、子ども・保護者・教職員を総合的に支援する。

○小中一貫教育については、11中学校区32小中学校のモデル校等において、学校・地域の実情に応じた小中一貫教育の在り方について研究を推進するとともに、モデル校等の取組の成果を全市に広め、小中一貫教育の一層の充実を図る。また、碩田中学校区では、平成29年度の新設校開校に向け、準備を行う。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		

**④ 時代の要請にこたえる創意ある教育環境の整備**

学校施設環境の整備 充実	学校図書館の空調設備設置校の割合	69%		100%	平成25年度事業終了	
	トイレの全面改修実施校数	年2校	年2校	年2校	衛生に対する意識及び生活環境の改善を図るため、小学校2校で実施した。	A
	特別教室の全面改修実施校数	年6教室	年4教室	年4教室	小学校の理科室・家庭科室各1教室、中学校の理科室・調理室各1教室、計4教室を改修した。	A
	プールの改築実施校数	年0校	年1校	年1校	小学校1校で実施した。	A
	外壁及び屋上大規模改修実施校数	年3校	年6校	年4校	緊急性の高い校舎の外壁及び屋上大規模改修を小学校4校、中学校2校で実施した。	A
	環境に配慮した施設整備実施校の割合	18%	29.8%	28%	校舎の増改築に伴い、中水利用・人感センサー付照明設備・LED照明等、省エネ・省資産型の施設整備を6校実施した。	A
学校施設の耐震化の推進	耐震化率	75%	98.9%	100%	耐震診断結果を基に作成した小中学校の耐震化計画により、統合に伴う新校舎の建設を進めている3小学校を除き、平成26年度までに耐震化を完了している。	A
隣接校選択制の実施	実施方法の見直し	実施	実施	実施	余裕教室の状況、児童生徒数の推計、小学校の統合などの状況などを考慮しながら、受入定員や隣接校の見直しを行った。	A
通学区域制度の弾力的運用	多様化するニーズに配慮した運用	実施	実施	実施	小規模特認校制度の申請に係る内容の変更を行うなど、通学区域制度の見直しを適宜行った。	A

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
市立小・中学校の適正配置	計画の推進	計画の検討開始	実施	実施	優先順位2の神崎中学校区と野津原中学校区については、適正配置地域協議会からの報告を受け、校区ごとの「実施計画」を策定した。	A
教職員研修の充実	研修内容の充実(講座数)	105講座	130講座	120講座	大量退職、大量採用による若手教職員の育成等の本市の実情や国の動向、教職員のニーズに応じた研修講座を開設する中、120講座の目標が達成できている。	A
子どもの読書活動の推進	学校図書館蔵書の充足率	129.6%	130.4%	110%	学校図書購入に係る計画的な予算化や適正な蔵書管理により、蔵書の充足率100%を昨年に引き続き維持できた。	A
奨学制度の充実	制度の見直し	実施	実施	実施	平成26年度に創設した給付型奨学資金制度については、募集人員を平成26年度の5名から10名に増員した。また、従来の貸与型奨学資金については、引き続き早期の貸与開始に努めた。	A

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

- 学校図書館の空調設備設置については、平成25年度に100%を達成した。
- トイレの全面改修については、年次指標を達成した。
- 特別教室の全面改修については、年次指標を達成した。
- プールの改築実施については、年次指標を達成した。
- 外壁及び屋上大規模改修については、年次指標を達成した。
- 環境に配慮した施設整備実施については、校舎の改築や設備の更新時期に併せ実施した。
- 耐震化率については、28年度末に 碩田中学校区の新設校の完成で100%となる予定である。
- 通学区域制度の弾力的な運用のうち、小規模特認校制度については、本市東部地区に小規模特認校が未設置となっている現状から、本制度を平成31年4月を目標にこうざき小学校へ導入することを決定した。
- 市立小・中学校の適正配置のうち、優先順位1の碩田中学校区については、施設一体型小中一貫教育校の施設整備を進めるとともに、開校準備を円滑に推進するため、保護者等の参画を得て「碩田中学校区新設校開校準備委員会」が組織され、平成29年4月の開校を目指した検討を行った。
- 若手教員の人材育成の観点に立った研修講座を開設するとともに、自主的に取り組む教職員を支援するため環境づくり(放課後講座)を工夫することにより、本市の実情や、教職員のニーズに応じた研修の充実を図った。
- 高校生を対象とした給付型奨学資金制度については、募集人員10名に対し、前年度を6名上回る27名の応募があった。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

- 教育環境の整備の充実を目指し、引き続き指標達成を目指す。
- 市立小中学校の適正配置のうち、神崎中学校区と野津原中学校区については、統合校の運営や統合準備を円滑に推進するため、保護者等の参画を得て新たな組織を平成28年度に設置し協議を行う。
- 大量退職、大量採用による若手教職員の増加に伴い、大分市教職員研修の研修体系を見直し、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、若手教員の自主的・自発的な研修の支援体制づくりにむけ放課後講座の充実に努める。
- 奨学制度を導入している他都市の状況などを参考に、今度とも奨学制度の充実を図る。

**[3] 参考**

トイレ改修



プール改築



●大分市標準学力調査 <全小中学校が対象>

実施学年	小学校 第4学年						中学校 第1学年							
	国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
大分市偏差値平均	50.3	49.8	51.5	50.5	50.4	48.7	51.6	51.2	50.2	48.8	50.5	50.3	50.6	52.0
全国との差	+0.3	-0.2	+1.5	+0.5	+0.4	-1.3	+1.6	+1.2	+0.2	-1.2	+0.5	+0.3	+0.6	+2.0

●大分県学力定着状況調査 <全小中学校が対象>

実施学年	小学校 第5学年						中学校 第2学年							
	国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分市偏差値平均	51.8	50.7	52.2	52.7	52.2	51.7	51.4	49.9	51.0	50.5	50.7	50.6	50.1	49.8
全国との差	+1.8	+0.7	+2.2	+2.7	+2.2	+1.7	+1.4	-0.1	+1.0	+0.5	+0.7	+0.6	+0.1	-0.2

学校図書館での一人当たりの年間貸出冊数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小学校	74.0	81.4	88.0	93.4	102.8
中学校	7.5	9.4	10.0	10.0	10.1

◎「大分っ子体力アップわくわく事業」とは、本市小学生の体力で低い傾向にあるスピード・全身持久力・瞬発力の体力を向上させるため、陸上運動・器械運動及び体づくり運動の3領域の専門的知識を持った指導者を派遣し、体育授業させることにより、児童の体力向上を図る事業である。

○大分市体力・運動能力調査

区分	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小学校 (96項目)	全国平均達成率	56.3% (54項目)	66.7% (64項目)	80.2% (77項目)
	対前年度上昇率	84.4% (81項目)	86.4% (83項目)	62.5% (60項目)
中学校 (48項目)	全国平均達成率	20.8% (10項目)	25.0% (12項目)	60.4% (29項目)
	対前年度上昇率	70.8% (34項目)	87.5% (42項目)	85.4% (41項目)

◎小中学校における食育等の取組状況

区分	項目	27年度	参考(26年度実績)
小学校(52校) 単独調理場	給食試食会(保護者対象)	49校	44校
	料理教室	8校	10校
	食に関する指導(給食時間を含む)	47校	46校
小学校(8校)※ 中学校(27校) 共同調理場	給食試食会(保護者対象)	25校(小5、中26)	22校
	料理教室	4校(小1、中3)	4校
	食に関する指導(給食時間を含む)	24校(小4、中20)	29校
	学校訪問(給食時間)	31校(小5、中26)	35校

◆大分市立小中学校適正配置基本計画に係る取組状況

優先順位 (実施時期)	適正配置の対象6中学校区	取組状況
1 (平成28年度頃まで)	<b>碩田中学校区</b> ＜ 荷揚町小学校、中島小学校、住吉小学校 ＞	平成27年2月 碩田中学校区適正配置実施計画 推進方針を策定
2 (平成30年度頃まで)	<b>神崎中学校区</b> ＜ 木佐上小学校、こうざき小学校、大志生木小学校 ＞	平成28年1月 神崎中学校区適正配置実施計画 を策定
	<b>野津原中学校区</b> ＜ 野津原東部小学校、野津原中部小学校、 野津原西部小学校 ＞	平成28年2月 野津原中学校区適正配置実施計画 を策定
3 (平成33年度頃まで)	<b>大分西中学校区</b> ＜ 八幡小学校、神崎小学校 ＞	児童生徒数の推計等をもとに、校 区の状況に応じて関係者との意 見交換を実施
	<b>戸次中学校区</b> ＜ 戸次小学校、上戸次小学校 ＞	
	<b>竹中中学校区</b> ＜ 竹中小学校、竹中中学校 ＞	

**重点施策 1 豊かな人間性の創造 (3) 社会教育の推進と生涯学習の振興**

**【1】 目標**

○市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送るため、その生涯にわたって、あらゆる機会あらゆる場所において学習することができるよう、幼児期から高齢期までの各期に応じた魅力ある学習の場の提供に努め、市民の学習活動を促進する。  
 ○自ら学び、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の実現をめざす。  
 ○地域の学習拠点、家庭教育の支援拠点、学校・家庭及び地域社会の連携拠点として、公民館など社会教育施設の機能を充実し、魅力ある多様な事業展開を図る。

**【2】 取組の進捗状況**

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 生涯学習支援体制の充実</b>						
読書活動支援の取組	校区公民館への図書配送業務	全校区館	全校区館	内容の充実	「校区公民館の利用」について市民図書館HPで情報提供を行うとともに、窓口で配布する「ご利用案内」にも掲載し、来館者に広報を行った。また、校区公民館に配置している返却ポストへのポスター貼付による利用案内を実施した。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>                      ●大分駅近傍に立地する等、利便性が高い大分市民図書館は、コンパルホール分館との2館体制となってから3年目を迎え、図書の貸出者数や貸出冊数、予約冊数等が年々増加している。また、校区公民館への図書配送業務が徐々に浸透しつつある。                      ●居住地に近い校区公民館に、24時間返却可能なボックスが設置されていることが返却冊数の伸びにつながっている。</p> <p>・校区公民館利用統計（貸出・返却冊数）                      24年度 12,223冊                      25年度 16,784冊                      26年度 21,041冊                      27年度 21,761冊</p>						
<p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>                      ○校区公民館で図書の貸出・返却ができる環境であるという事を、地域住民に周知するため、従来からの市民図書館HPでの情報提供や、「ご利用案内」への掲載・配布、返却ポストへのポスター貼付による利用案内を引き続き実施し、周知の徹底を図る。また、市内小・中学校へ年6回配布する広報紙の中でも、校区公民館の利用案内を掲載する。</p>						
<b>② 学習情報提供活動の充実</b>						
生涯学習に関する多様な学習情報の提供	「まなびのガイド」へのアクセス件数	69,497件	107,801件	8万件以上	社会教育施設や地域の最新情報の提供、動画配信の充実等により、指標より増加している。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b>                      ●「まなびのガイド」のアクセス数は、市民に提供する情報の内容や動画配信コンテンツの充実により順調に伸びている。</p>						
<p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>                      ○市民の生涯学習に関する多様なニーズに対応するため、学習教材をデジタル映像化して提供する「まなびのデジタル資料館」等のさらなるコンテンツの充実に努める。</p>						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		

### ③ 学習機会や内容の充実

家庭教育を支援するための取組	「家庭教育学級」の開設数	71学級	78学級	90学級	地区公民館との連携を図りながら、地域の子育てサークルや読みきかせサークルを母体とする学級の開設に力を入れ、26年度より7学級増の78学級を開設することができた。	B
	地区公民館で開催する集会「子育ての集い」への参加者数	2,531人	1,200人	1,400人	地域の中で、子育てネットワーク構築を進めることに主眼を置いて事業を見直したため、大きなイベントが減り、一時的に参加者数は大きく減少したが(H23年度 730名)、実施内容の充実とともに、参加人数も増加してきている。	B
	地区公民館で開催する「乳幼児家庭教育学級」への参加組数	339組	433組	400組	13地区公民館で、18の学級が開講した。各公民館が特色ある学級の創造に努力しており、参加組数は、順調に増加している。	A
	小学校就学前の子どもをもつ保護者が学ぶ「子育て講演会」の開設数	60小学校 3保育・幼稚園	全小学校 12保育・幼稚園	全小学校 10保育・幼稚園	就学時健康診断に集まった保護者を対象に全小学校で実施した。保育園・幼稚園での実施も順調に増加している。	A
	中学校にて思春期の子どもたちの心理や保護者のあり方を学ぶ「思春期講演会」の開催校数	100%	100%	100%	すべての中学校で1年生の保護者を対象に実施した。	A

#### <成果と課題(成果● 課題▲)>

- 「子育ての集い」では、地区公民館と地域の子育て支援者等と連携し、事業を構築することができている。
- 「乳幼児家庭教育学級」は、保護者同士のネットワークづくりや子育ての相談ができる場となっている。
- 「子育て講演会」「思春期講演会」では多くの保護者が集まる機会を捉えて実施することができ、子育て支援につながる学習の場を提供することができた。

#### <今後の取組の方向性及び改善策>

- 子育て中の親が、学習を通じて同世代の子をもつ親や、子育て支援者等と交流し、地域の中で子育てネットワーク構築を進められるような事業内容の構築を図る。
- 家庭教育学級の開設については、今後も地区公民館との連携を図りながら、地域の子育てサークルへの広報活動を行い、自主グループの開拓に取り組む。



子育ての集い



家庭教育学級リーダー研修会

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>④ 地域活動の充実</b>						
地域の子ども活動を支援する取組	「おおいたふれあい学びの広場」実施校区数	53校区	60校区	60校区	木佐上小は閉校となったが、事業は旧木佐上小校区で引き続き実施され、60校区での実施となった。	A
「生涯学習指導者登録制度」の拡充	登録者数	305人	403人	400人	26年度の380名より23名増えて、403名の登録となった。各地区公民館の広報努力により、登録者は順調に増えている。	A
<p><b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b></p> <p>●「おおいたふれあい学びの広場推進事業」としてすべての小学校区で地域の指導者のもと、昔の遊びや工作、読み聞かせ、料理、学習支援、スポーツ等の体験活動を子どもたちに提供することができた。</p> <p>●地区公民館と連携し、生涯学習指導者の登録者数を増やすことができた。</p>						
<p><b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b></p> <p>○公民館が企画・運営する地区公民館主体型から地域の団体やグループ等が主体となって企画・運営する地域主体型への移行を図り、地域で子どもの体験活動を支える体制づくりを更に進める。</p> <p>○生涯学習指導者登録制度の拡充については、生涯学習情報ポータルサイト「まなびのガイド」を活用し、広く市民に情報提供を行う。また、地区公民館の事業等での講師や協力者としての活躍の場を創出するため、地区公民館等との連携をより一層深める。</p>						
<b>【3】 参考</b>						
<p><b>「学習機会や内容の充実「家庭教育を支援するための取組」</b> (平成27年度 家庭教育学級活動報告より)</p> <p>◆保護者全体の輪が広がり、共通の話題で情報交換をしたり、話を深めたりすることができた。</p> <p>◆子どもたちの「食」や「健康」について学習でき、子どもはもちろん家族の健康について意識や理解が深まった。</p> <p>◆生後3カ月～3歳児の子どもたちとその保護者が定期的に集まり、たくさんの絵本の中でわきあいあいと過ごすことで、情報交換や励まし合いができるようになった。</p> <p>◆入学説明会のアピールのおかげで、1年生の学級生が増えた。</p> <p>◆学級生数の減少や仕事の為不参加となる回が増えているのが残念です。学級生の負担にならず、内容を深めていけるよう研究したいと思います。</p>						
<p><b>「地域活動の充実「地域の子ども活動を支援する取組」</b> (平成27年度 おおいたふれあい学びの広場推進事業 ～参加者の声から～)</p> <p>◆日本舞踊は、やってみると少し膝をつけて踊るのが難しかったです。でも、扇子や傘を使ってきれいに踊ることができました。音楽もよくて、この伝統ある踊りを踊れてすごく楽しかったです。</p> <p>◆田植え、稲刈り、もちつきまでの流れを1年間を通じて学ぶことができました。食物ができるまでの苦勞を知る良い機会になりました。</p> <p>◆キャンプや釣り等自然とふれあう活動ができてとても楽しかったです。</p> <p>◆近所の方が放課後勉強をみてくれた。わからない所をやさしく教えてくれたのがうれしかったです。</p> <p>◆いつも近所で出会うおじいちゃんやおばあちゃんたちと一緒に昔の遊びをしました。初めての体験だったけど、とても楽しかった。</p>						



## 重点施策 1 豊かな人間性の創造 (4) 青少年の健全育成

### [1] 目標

○「青少年自らの力による成長」と「青少年の成長を支える大人の体制づくり」を2本柱として、学校、家庭、地域社会、職場が青少年の健全育成に向けてそれぞれの役割を果たし、豊かな人間性や社会性を身につけた、新しい時代を切り拓く青少年の健全育成に努める。

### [2] 取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 学校教育における生徒指導の充実</b>						
大分市小中学校生徒指導連絡会	内容の充実に向けた見直し(毎年度)	実施	実施	実施	児童生徒の問題行動の対応について、関係諸機関職員から直接話を聞いたり、事例検討を行ったりすることで、参加者が児童生徒の問題行動等の現状や対応の仕方について、理解することができた。	A
大分市小中学校教育相談担当者研修会	内容の充実に向けた見直し(毎年度)	実施	実施	実施	いじめ・不登校等の未然防止と適切な対応に向けた研修の充実を図るとともに、教育相談体制の構築を協議した。	A
大分市いじめ・不登校等対策協議会	協議会の開催回数	3回	3回	3回	いじめ・不登校等の状況を分析し、未然防止や早期対応について、専門的見地から意見を聞き、各学校への指導に生かすことができた。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b> ●携帯・スマートフォンの普及により、児童生徒の交友関係が学校内だけでなく、広範囲におよんできている。こうしたことから、各学校間の生徒指導上、気になる児童生徒の交友関係を把握し、当該校と連携して対応するなど、問題行動の未然防止や早期解決に努めることができた。 ●平成27年4月に策定した「大分っ子不登校対応マニュアル」等をもとに、不登校の未然防止と不登校児童生徒への対応に努めた。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○児童生徒の問題行動(暴力行為、いじめ・不登校等)が発生する背景が、複雑化・多様化している現状から、学校が警察や児童相談所等の関係諸機関との連携をさらに強化し、未然防止と早期対応を図っていく必要がある。 ○不登校児童生徒については、増加傾向にあることから、「大分っ子不登校対応マニュアル」等を活用した新たな不登校を生まない取組を行い、未然防止、早期対応等に努めていく。						
<b>② 青少年の健全育成活動・社会環境整備などの推進</b>						
児童生徒のボランティア活動	活動への参加率	88.2%	96.0%	95.0%	児童生徒の豊かな人間性や社会性を身に付けることを目的に、ボランティア活動の積極的な参加を促した結果、学校や地域のボランティア活動に主体的に参加する児童生徒が年々増え、平成27年度の参加率は96.0%に増加した。	A
インターネット上のトラブル防止に向けた取組の推進	安全教室や研修会等の実施校数	中学校13校	全小中学校	全小中学校	全小中学校で情報モラル教育を実施することができた。	A

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
大分市こどもの安全見守りボランティア推進事業	ボランティア人数	27,048人	31,074人	30,000人	学校が中心となり、PTAや地域関係者に登録の拡大を呼びかけた結果、指標である30,000人を超えることができた。	A
少年自然の家主催事業	定員に対する参加率	90%	100%	100%	参加者のアンケート等を参考に、内容や期日等を改善し、様々な年齢の参加者一人ひとりを大切に企画・運営に心がけた結果、参加率は100%に到達した。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●地域の公園清掃や空き缶回収、福祉施設の訪問等、学校の実情に応じてボランティア活動の取組を行った。  
▲子どもたちのコミュニケーション手段の中心がインターネットや携帯・スマートフォン等になっており、大人からは子どもたちの交友関係の広がりや、悩みなどを把握しづらい現状がある。そのため、子どもたちに、発達の段階に応じたネットモラル教室を開催するとともに、保護者に対しインターネットの危険性や、携帯・スマートフォン等の使用時間や使用場所を決めるなど家庭内におけるルールの大切さを啓発していく必要がある。  
●8つの主催事業を通じて、多くの参加者に「自然の中で活動することの楽しさ、気持ちよさ」などを改めて感じてもらうことができた。また、九重連山が一望できる景色のよい食堂でコンサートを開催するなど、既存施設の新たな活用法と魅力をアピールすることができた。（少年自然の家主催事業）

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○児童生徒のインターネットやコミュニティサイト、無料通信アプリ等に起因するトラブルや問題行動の未然防止、早期発見、早期解決に向けて関係諸機関と連携し、「携帯・スマートフォン等を安心して利用するためのルールづくり」の徹底を図っていく。  
○アンケートなどで得た情報をもとに、新たな活動プログラムの開発など、市民のニーズに応じた魅力ある事業を企画運営し、参加者の満足度を高めていく。（少年自然の家主催事業）  
○大分市生涯学習情報「まなびのガイド」ホームページの活用促進や広報誌「すばる」などの内容の充実を図り、より多くの市民に情報を提供することにより、参加者増を目指す。（少年自然の家主催事業）

**[3] 参考**

「青少年の健全育成活動・社会環境整備などの推進」  
（のつはる少年自然の家 主催事業「音&星（オットセイ）～音楽と星空を楽しもう～」の感想から）

- ◆オカリナやピウエラのきれいな音色が聴けて良かった。（複数回答）
- ◆森の音楽会に参加して、コンサートに興味ができた。
- ◆初めて土星を観たり、夏の大三角を観たりして、とても美しいと思った。（複数回答）
- ◆森の中のいろいろな音を聴くことができて良かった。（複数回答）
- ◆自然と仲良くなることができた。
- ◆新しい友だちができた。人見知りがなくなって成長できたと思う。（複数回答）



食堂でのコンサート



星空の観察

## 重点施策 2 人権を尊重する社会づくりの推進

### 【1】目標

○「市民一人ひとりが互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」をめざし、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人、HIV感染者・ハンセン病患者などをめぐる問題など、身のまわりにあるさまざまな問題の解決に向けて取り組む。  
○学校や地域において、「差別をしない、させない、許さない」という意欲と実践力をもった市民の育成に努める。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 学校教育における人権・同和教育の推進</b>						
他の人の立場に立って考える想像力の育成	交流活動、体験活動の実施校	35校	84校	47校	交流活動や体験活動の重要性について、研修会や研修資料などで触れ、学校訪問などの機会に計画的な実施を呼びかけてきたため、実施校が増加してきている。	A
教職員の研修の充実	1時間以上の校内研修の回数	247回	424回	348回 (1校年4回)	校長会などの機会を通じて、指導主事の積極的活用も含めた実施の徹底を呼びかけてきたため、実施回数が増加している。	A
保護者への人権啓発事業	人権啓発講演会などの開催学校数	30校	40校	40校	学校や大分市PTA連合会人権教育部等を通じて、講演会の開催を呼びかけている。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b> ●各学校で交流活動や体験的な活動を取り入れた実践が増加してきている。教職員研修については、1時間以上の校内研修数の増加に加え、資料等を活用した短時間の研修を取り入れるなど、人権・同和教育の重要性が認知されてきている。 <b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○体験活動については、人権啓発センターの活用も含め、他の人の立場に立って考える想像力を育成するための、より効果的な内容や方法の工夫・改善に努める。 ○学校教育における人権・同和教育の効果的な推進には保護者啓発は欠かせないことから、保護者の実態やニーズを的確にとらえながら、大分市PTA連合会人権教育部等との連携を一層強め、人権啓発講演会等の開催を促進する。						
<b>② 社会教育における人権・同和教育の推進</b>						
人権講演会	人権講演会(地区人権教育(尊重)推進協議会主催等)の参加人数	6,465人	7,033人	7,000人	各地区人権協等のもつ課題とともに、参加者のニーズも考慮しながら講師や内容を検討しており、参加者が増加している。	A
大分市人権・同和教育推進連絡協議会	加入団体数	88団体	99団体	105団体	庁内各課や加入団体と連携をとり、企業等への新規加入をよびかけており、加入団体の増加に努めている。	B
地区人権教育(尊重)推進協議会	地区懇談会の参加者数	4,745人	7,182人	6,000人	各地区人権協事務局と連携し、自治会をはじめとする諸団体に対して継続や新規の開催を呼びかけたため、参加者数が増加している。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b> ●各地区人権教育(尊重)推進協議会の存在や活動が定着し、また各地区人権協発行の広報誌等を活用した積極的な広報活動により、開催回数や参加人数が増加している。 <b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○講演会、懇談会について参加者数や参加層(性別・年齢等)の拡大を図る中、「人権が尊重されるまちづくり」の取組を推進する。 ○庁内各課や加入団体との連携を深め、大分市人権・同和教育推進連絡協議会の加入団体の増加に努める。						

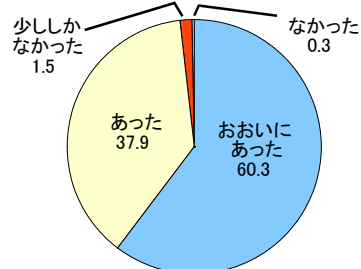
具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>③ 人権啓発の推進</b>						
人権啓発研修会などの人権啓発事業	講師派遣回数	271回	319回	295回	参加者のニーズ等に応じた効果的な研修を実施するよう努めるとともに、広報チラシ等による呼びかけにより開催回数が増加したことに伴い派遣回数も増加している。	A
人権にかかわる視聴覚教材の充実	ビデオテープ、DVDの所蔵数	166本	197本	190本	使用団体や研修内容を考慮するとともに、庁内各課と調整しながら各種研修に対応できるように、効果的な教材の購入に努めている。	A
大分市人権問題講師団の充実	講師数	26人	36人	35人	講師団への登録を呼びかけるとともに、講演会等への案内や研修内容・方法の紹介に努めたため、登録者数が増加した。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●各団体のニーズ（研修の時間、場所、内容等）に柔軟に対応しているため、講師派遣の回数が増えている。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○講師派遣を希望する各団体の幅広いニーズに応えられるよう、心情に訴える教材や時宜に応じた話題、身近な話題、またインターネット・ハラスメント等の新たな課題を取り入れるなど、研修内容の質的向上に努める。						

### 【3】参考

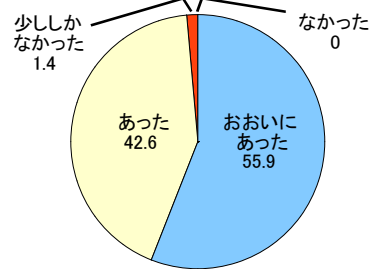
#### ◎人権啓発研修会等のアンケート結果より

～34講座 788人から4段階の評価と感想を回収～

#### ●新たな気づきや、心に残ったことがありましたか。



#### ●今後の生活や仕事の中で生かせそうなことがありましたか。



- ◆差別は身近な小さなところにも潜んでいることを実感しました。自分の何気ない一言で相手を傷付けてしまうということを実感したので、相手の気持ちを考えたいと思いました。
- ◆常に自己肯定感ということを頭に置き接しているつもりです。子どもは勉強も運動もできません。しかし毎朝休まずに登校ししっかり歩いて帰ってきます。それで十分です。ありのままを受け止めてあげれば人として成長することができると思います。
- ◆教科書の話は深く心に残りました。子ども二人にもぜひ話をしたいと思います。また自分にもできることがあることがわかったので、できることから取り組みたい。
- ◆思い込みはなかなか抜けないと思うが、それってどういうことなのか考えてみるのが大事だと思います。思い込みを行動に移さないように気をつけていきたいです。
- ◆自分では当然のように提出していた履歴書が簡潔になっていたのは驚きでした。昔、自分が父の職業を書きづらかったことを思い出しました。今日の話はすごくわかりやすかったです。忘れないうちに息子と人権学習をします。
- ◆自分を見直すいい機会になりました。愛情をもって接し、子どもとの時間を大切にしたいです。子どもが生まれてきたときの感謝や感動の気持ちがよみがえりました。

## 重点施策 3 個性豊かな文化の創造と発信

### 【1】目標

○真の豊かさやゆとりや潤いのある地域社会の創造をめざし、子どもから大人までが優れた芸術文化に親しむ場や文化活動に対する学習機会を提供するための基盤づくりを推進し、芸術文化や施設利用に関する幅広い情報の提供に努める。  
 ○地域に生活する人々のやすらぎや連帯感、郷土意識を高めるため、地域に根ざした歴史や伝統・文化を伝えるかけがえのない文化財の保護に努め、地域の様々な文化財情報を発信することにより、自然や歴史的景観と調和した個性的で魅力あふれるまちづくりを推進する。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価	
		22年度	27年度	28年度			
<b>① 独自の文化の創造と発信</b>							
美術館	優れた美術を鑑賞する機会の提供	所蔵作品の公開率	87.6%	92.4%	93%	所蔵作品の計画的公開により、公開率は順調に推移している。	A
		美術館施設利用者数	259,000人 H19～22 平均	373,288人	260,000人 H24～28 平均	夏休み期間の「水戸岡鋭治展」、集客力の高い「篠山紀信展」などの特別展や芸術に親しむ場を提供するチャイルドハウスの利用者数の増大で、目標指標を上回り、対前年度比においても増加した。	A
	市民の自主的・創造的文化活動の促進	アートプラザ施設使用率	84%	88%	89%	効果的な広報活動等による施設の認知度アップに加え、県立美術館の開館が、芸術活動情報発信の機運を高め高水準の使用率につながった。	A
		アートプラザ利用者数	171,026人	172,483人	175,000人	26年度に続き、27年度も話題性の高いアーティストの展示会を実施、県内外からの誘客にもつながり利用者数は順調に推移している。	A
	本市独自の文化の創造と発信	常設展出品作品の作品解説整備率	48.4%	76.2%	55%	展覧会、作品収集などの業務の中で収蔵作品の調査・研究を行い、展示内容に反映させるとともに、その成果を教育普及事業においても発表している。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●所蔵作品については、常設展における計画的な公開実施に加え、27年度は企画展「芸術都市の水脈展」において、約400点を常設展示室と企画展示室をひとつの会場として公開実施、公開率の向上を図りながら、出品作品の解説を充実させた。 ▲施設利用者数は順調に推移しているが、今後も市民ニーズに応えながら、多くの利用者が期待できる展覧会の実施や、効率的・効果的な展覧会の開催・運営方法を検討するとともに、子ども講座の内容改善とボランティアとの協働、チャイルドハウスの利活用を連動させる中で増加を図る必要がある。							
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○市民が優れた文化・芸術に触れ親しむ機会の拡大、本市独自の文化・芸術の情報発信、市民の主体的な活動の場の創出に努めることが求められている。 ○大分県立美術館と連携を図りながらも、大分市美術館の独自性を発揮して存在感を高め、相乗効果を生み出して、地域の文化・芸術振興に寄与しなければならない。							
<b>② 文化活動の振興</b>							
美術館	文化活動団体やアーティストとの協働による事業の推進	外部講師数	9人	51人	11人	講座・関連イベント等の実施にあたっては、関係文化団体、学校、多くのアーティストなどとの協働により事業の拡充を図った。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●まちなかのアートプラザ、大分いこいの道、市美術館において、大分市在住で国際的にも活躍している現代美術アーティストによる大型インスタレーションを中心としたアートイベントを実施、アートを活かしてまちなかの活性化に寄与する事業を展開した。  
 ●上野の森アートフェスティバルや美術館で音楽会など、美術以外の分野での文化・芸術振興を図っている。  
 ●美術館ボランティアの養成、研修講座を通しての育成など市民力活用の体制作りが進められている。  
 ▲文化活動の場を広げるために、美術館にとどまらない事業展開、通常の形式とは別のアウトリーチも検討すべきである。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○将来の文化・芸術愛好家を育成するため、展覧会はもとより、小中学生やその保護者、指導者向けの講座や出前教室などの充実を図る必要がある。  
 ○市民に文化・芸術に触れる多くの機会を提供するため、県や他都市、民間施設との連携、外部講師や美術館ボランティアとの協働による講座・講演会・イベントなどの充実を図ることが重要となる。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		

**③ 文化施設の整備や機能の充実**

美術館	資料の収集・保管、調査研究、教育普及、情報提供などの機能の充実	所蔵作品数	2,564点	3,083点	2,804点	「収集方針」並びに「美術品収集の中期的方向性」に基づき、適切な収集を行った。	A
	文化活動を行う多くの市民が交流しあえる場の提供	芸術文化講座数	24講座	45講座	25講座	特別展に関連する、特色ある講演会やイベント・ワークショップを数多く開催でき、会場は、講師はもとより参加者同士の交流の場となった。	A

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●所蔵作品が充実してきており、これを紹介するコレクション展（常設展）のテーマ設定の幅が広がった。  
 ●講座・講演会等は45講座を延べ172回開催、7,279人の参加者を得た。  
 ▲特色ある講座・講演会・イベントを実施し、文化・芸術活動を行う多くの市民が交流し合える場の提供が必要である。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○収集方針に基づく情報収集、調査を行い大分にゆかりのある美術家等の美術品を収集し、保存管理を適正に行う。  
 ○新たに収蔵した作品について、調査研究を深め、作家や作品に関する情報の提供や教育普及活動の充実を図る。  
 ○子ども講座や未就学児童が保護者と遊びながら工作・絵画活動等を行い、芸術に親しむ場としてのチャイルドハウスの利活用の拡充を図る。

**④ 文化財の保護・保存・活用**

文化財・資料館	文化財の適正な保存・調査・収蔵・公開・活用	大友氏遺跡の保存・活用	整備基本計画策定	整備基本構想策定	史跡公園一部整備	史跡大友氏遺跡整備基本計画を策定した。	C
		絵本等パンフレットの作成	資料収集	4種類刊行	3種類刊行	引き続き大友宗麟副読本を市内小学校へ配布し、授業では、地域の歴史と関連付けるなどの工夫が見られた。また市民向けの資料としてキリシタン・南蛮文化遺産を紹介したストーリーブックやガイドマップも刊行した。	A
		横尾貝塚の保存・活用	整備基本計画検討	史跡公園関係課協議の開始	史跡公園一部整備	公有化予定地における史跡指定地公有化は平成26年度に完了した。史跡整備計画スケジュールの検討は、史跡公園に係る関係課協議を開始した。	C
		横尾貝塚市民ボランティアの充実	20人	6人	100人	指定地の草刈などのボランティア活動を行っているが、史跡整備および保存・活用の取り組みが遅延し、会員の高齢化が進んできたため、ボランティア数が減少している。	D

具体的な施策		現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
			22年度	27年度	28年度		
文化財・資料館	文化財の適正な保存・調査・収蔵・公開・活用	文化財指定数	192件	203件	205件	大友水軍として活躍した若林家の文書や、府内城の絵図、江戸時代の仏像を文化財指定(市指定)し、3件増加した。	A
	文化財に関する情報提供機能の充実	指定文化財・資料館収蔵資料の公開数	138件	240件	250件	平成28年度の指標に向け、テーマ展示等に館所蔵資料を積極的に出陳する取り組みを継続しているため、公開点数が順調に伸びている。	A
	市民の学習・交流の場の提供	歴史資料館施設利用者数	42,457人	45,859人	45,000人	出張展示を実施するなど歴史資料館の利用促進を進めたため、利用者数の増加が見られ、目標指数を達成している。	A
		歴史資料館体験学習メニューの充実	11種類	19種類	18種類	平成27年度にあらたに織物の体験メニューを開発し、目標指数を達成することができた。	A
	大友氏遺跡体験学習館体験学習メニューの充実	10種類	19種類	18種類	あらたに万華鏡づくりの体験メニューを開発した。	A	

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

- 整備基本構想を含む『史跡大友氏遺跡保存整備計画』を策定した。
- 小学校6年生を対象とした大友宗麟副読本を昨年度に引き続いて市内全小学校に配布したことにより、社会科のほか総合的な学習の時間および道徳での授業実践を行う学校があり、活用に広がりが見られた。
- 大友氏遺跡をPRするパンフレットを作成し、各種情報発信イベントで活用したことにより、効果的な情報発信ができた。
- ▲大友氏遺跡の保存・活用については、計画の見直しを図り、整備を進めていく必要がある。
- ▲横尾貝塚の史跡公園整備については、関係課の協議を本格的に開始し、用地の買戻し計画等について検討を開始した。市民ボランティアの活発な活動により、史跡の情報発信や指定地の清掃等が定期的に行われてきたが、会員の高齢化が進み、横尾貝塚整備、保存・活用等の具体的な取り組みの遅延などもあり、ボランティアへの参加人数が近年減少してきている。
- 文化財の指定のための条件整備を進めることで指定文化財数を増加させることができた。
- 歴史資料館の資料館収蔵資料の公開数を増加させることができた。
- 新たに体験メニューを開発した。
- 資料館の利用者数が増加し、すでに指標を達成することができた。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

- パンフレットや学習イベント、体験メニューについて、出土遺物やパネルを利用した出張展示および副読本の授業への活用を推進することによって、郷土の歴史や文化財に関心を高め、大分市歴史資料館、大友氏遺跡体験学習館、大分市埋蔵文化財保存活用センターへの利用を促進する。
- 横尾貝塚の市民ボランティアの充実については、参加人数の増加に向けた取り組みを継続的に行う。

**⑤ 伝統的な芸能、行事の保存・継承**

文化財	伝統芸能、行事などの保存・継承	伝統文化調査報告書の刊行	報告書6冊刊行	平成24年度13冊刊行を達成	報告書13冊刊行	目標指数はすでに達成し、26年度には『おおいた春夏秋冬くらしの行事』の刊行を新たに行い、指標を超えた取り組みができています。	A
-----	-----------------	--------------	---------	----------------	----------	--	---

**<成果と課題(成果● 課題▲)>**

- すでに当初予定していた13冊の報告書の刊行を完了し、市内全小中学校及び公民館・図書館に配布した。
- 伝統文化調査報告書をもとに、カラー写真やイラストを使用し大分市の伝統文化についてわかりやすく紹介した『おおいた春夏秋冬くらしの行事』を刊行し、市内小中学校及び公民館・図書館に配布した。
- ▲『おおいた春夏秋冬くらしの行事』の活用について広く周知する取り組みが必要である。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

- 『おおいた春夏秋冬くらしの行事』の学校での具体的な活用について検討する。

### 【3】 参考

#### ◆美術館のアンケート意見抜粋

##### 【展覧会について】

- 大分発アヴァンギャルド 芸術都市の水脈～田能村竹田からネオ・ダダまで～
  - ・現代美術コレクションの充実ぶりを再確認した
- 水戸岡鋭治デザインワンダーランド 駅弁からななつ星まで
  - ・展示の量、質ともに予想以上でした（ほか同様の意見多数あり）
- エコール・ド・パリ展
  - ・いろいろな画家たちの作品を見られたので良かった（ほか同様の意見多数あり）
- 郷土在住作家展IX
  - ・作品数が多く見応えがあり、すばらしい作品でした
- 篠山紀信展 写真力
  - ・作品が豊富で見応えがありました
- 常設展
  - ・美術への興味関心が、子どもにもてるように工夫した展示がされていた(サマー企画)
  - ・福田平八郎、高山辰雄の絵がもっと見たかった

##### 【館の運営などについて】

- ・県立美術館と共通パスポート(年間)があると良いと思う
- ・特別展から常設展までにベンチだけでなく休めるところがあるとよい(自販機など)

##### 【その他】

- ・静かな会場でゆっくりみることができてとても良い
- ・100円バスの巡回があり、大変便利になりました

#### ◆ 大友宗麟副読本アンケート より

##### 【特徴的な取り組み】

- ・社会科だけでなく道徳の授業の郷土愛の内容で大友宗麟のパンフレットを作成した
- ・学習のまとめとして「大友氏遺跡体験学習館」に行き、新聞にまとめることができた
- ・調べ学習を行い、ポスターセッション形式で発表を行った
- ・地域にある大友家三代大友頼泰の墓があることを導入に取り組んだ

##### 【先生や児童の感想】

- ・国際文化が花開いた大友宗麟の時代を知り、これからも国際交流を深めていきたいという意識が高まった
- ・大友宗麟の生き方を学び、改めて郷土の偉人として覚えた子が多かった
- ・豊後国が世界地図の中にはっきり書かれていることがすごいと思った
- ・校区内にアルメイダ病院があり、府内病院が当時最先端の医療で多くの人を救ったということに驚きと共に誇らしげに受け止めていた
- ・バンダイクの絵は意外性があり、子どもも驚いていた
- ・いつも見て遊んでいる「カピタン号」や「浜の市」の由来などが分かりより興味を持った



## 重点施策 4 スポーツ・レクリエーションの振興

### 【1】 目標

○市民の誰もが身近な所で気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、「大分市スポーツ振興基本計画」に基づき、市民が主体的に取り組む環境づくり、多彩な活動機会の提供、指導体制の確立、情報提供機能の充実に努めるとともに、各種競技スポーツの競技力の向上を図る。

### 【2】 取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 生涯スポーツの推進</b>						
生涯スポーツの取組への支援	これまでのスポーツ教室の実施校区・地区数	28	35	33	各校区・地区に「中・青年並びに青少年スポーツ教室」の開催を奨励した結果、指標を上回る35校区・地区で開催することができた。	A
健康増進活動やスポーツ・レクリエーションの普及	多世代参加型行事への参加者数	27,041人	36,352人	29,000人	各校区・地区体育協会主催の運動会をはじめ、グラウンドゴルフやウォーキングなどに、指標を上回る多くの地域住民が参加した。	A
総合型地域スポーツクラブの展開の支援	設立クラブ数	9	13	15	「大分市総合型クラブ連絡協議会」を開催し、情報交換等によるクラブ間の交流を行うなど、既設クラブの自主的運営の定着を図った。また、新規設立に向けて設立準備委員会が2クラブ立ち上がった。	B
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●生涯スポーツ社会の実現に向け、各校区・地区体育協会の特色ある行事の開催や総合型スポーツクラブによる地域住民のニーズにあった教室・イベントの開催により、多くの市民のスポーツに対する興味関心が高まっている。 ●各校区・地区体育協会に財政的支援を行いながらスポーツ振興を奨励した結果、多くの市民がスポーツに親しみながら健康づくりや世代を超えた交流を深めることができた。 ●市民の誰もが「いつでも、どこでも、いつまでも」気軽にスポーツ活動に取り組める「総合型地域スポーツクラブ」の新規設立を目指し、佐賀関地区と東植田地域で設立準備委員会が立ち上がった。 ▲校区・地区のイベントへの参加はもとより、定期的な運動・スポーツ実施率の向上が課題である。 ▲「総合型地域スポーツクラブ」はクラブの自主的運営が基本であり、そのためには、財源・会員・拠点施設の確保が必要である。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○市民が生涯にわたって健康で活力に満ちた生活を送ることができるよう、引き続き、各校区・地区体育協会や総合型地域スポーツクラブによる地域のニーズに応じたイベントや教室の開催に向けた支援を行う。また、市民がスポーツに親しみながら健康づくりや世代を超えた交流を深めることを目的として開催する、大分市スポーツフェスタの参加競技団体の増や、幅広い世代が気軽に参加できる体験教室の実施を働きかけるなど、市民の誰もが身近にスポーツに親しむことができる機会の提供に努める。						

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>② 競技スポーツの振興</b>						
各種競技団体の活動支援	県民体育大会の優勝競技数 (平成27年度公開競技を除く郡市対抗競技数37)	18	25	24	郡市対抗競技37競技中、25競技で優勝し、指標に掲げる優勝競技数を上回った。	A
選手の育成・強化と指導者の養成						
大学・企業などへのスポーツ振興の働きかけ						
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
●競技団体への活動支援や強化練習会等により、優勝奪還競技が6競技となるなど、競技力は着実に向上した。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○強化練習会における市有施設の優先利用など、競技団体への活動支援を継続することにより、さらなる競技力の向上を推進する。						
<b>③ 指導体制の確立</b>						
指導者研修会などの充実	指導者研修会の参加者数	759人	895人	900人	スポーツ医科学や各種運動指導者を招聘し、スポーツ推進委員やスポーツ少年団等のニーズに応じた研修会を実施した。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
●指導者に対する研修会を開催したことにより、スポーツ少年団員のスポーツ障害予防や子どものからだの発達段階に応じた指導法の習得等、指導者や保護者の資質向上が図れた。また、27年度より、運動部活動の適正な運営と指導者の資質の向上を図るため、運動部活動外部指導者の研修会を開催した。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b>						
○市民の誰もが良好にスポーツに親しめるように、スポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者、中学校運動部活動指導者等を対象とした継続的な研修会を実施するとともに、内容の充実を図る。						
<b>④ スポーツ・レクリエーション施設の整備</b>						
施設の整備	グラウンドの芝生化	4	6	6	市長部局と連携して、球場の芝生化した部分の維持管理に務めた。	A
施設の効率的な利用促進	利用可能な民間所有の施設数	1	3	3	総合型地域スポーツクラブの活動拠点として民間施設が活用されている。	A
<b>&lt;成果と課題(成果● 課題▲)&gt;</b>						
●グラウンドの芝生化については、市長部局と連携して、芝生化した部分の維持管理に努めた。 ●利用可能な民間所有の施設数については、総合型地域スポーツクラブが民間施設を日頃の活動の拠点として積極的に活用している。						

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○利用可能な民間所有施設数の28年度目標は達成しているが、今後も引き続き活動可能な民間施設の開拓を進めていく。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		

**⑤ 情報提供機能の充実**

施設情報の提供や予約機能の充実	予約システムの登録者数	12,952	17,902	16,600	広報活動等を行ったことにより、指標とする年度を前に目標を達成した。	A
-----------------	-------------	--------	--------	--------	-----------------------------------	---

**<成果と課題（成果● 課題▲）>**

●市報や、市ホームページ等積極的に広報活動を行ったことや、ホルトホール大分がオープンしたことによる施設利用者の増加に比例し登録者が増加した。

**<今後の取組の方向性及び改善策>**

○目標値を達成しており、さらに登録者数の増加を目指し、広報活動等の取り組みを行う。

**【3】参考**

◎大分市総合型地域スポーツクラブ 年度別会員数

(単位:人)

クラブ名	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
NPO法人 七瀬の里Nクラブ		730	600	694	684	690	743
ひしのみクラブ		190	170	85	126	124	121
NPO法人 川添なのはなクラブ		6,512	6,535	6,459	6,365	6,314	6,265
NPO法人 わいわい夢クラブ		252	269	261	321	318	345
NPO法人 賀来衆倶楽部		352	387	350	309	311	303
NPO法人 おおみちふれあいクラブ		222	168	177	224	221	200
OZAI元気クラブ			135	200	210	215	220
みんなの明治クラブ			228	247	235	230	255
明ゆうクラブ			146	230	222	225	211
西の台あいあい倶楽部			70	80	85	88	110
わさだ夢クラブ				104	149	149	176
判田すこやか倶楽部					150	151	150
NPO法人 滝尾百穴クラブ					60	140	150
合計		8,258	8,708	8,887	9,140	9,176	9,249

## 重点施策 5 本市教育を推進する教育委員会の充実

### 【1】目標

○教育委員会には、地方公共団体における教育行政の責任ある担い手として、地域のニーズに応じた教育行政を主体的に企画し実行していくことが、一層強く求められている。そこで、保護者や地域住民の期待に応える質の高い教育を実現していくために、教育委員会体制をより充実し、教育改革を推進する。

### 【2】取組の進捗状況

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>① 教育委員会の活性化</b>						
ホームページの充実	市民への教育委員会活動の「見える化」を図る	一部実施	実施	実施	教育委員会会議の開催予定や会議録を公開するとともに、教育委員会の紹介ページに顔写真を掲載した。また、教育委員会の活動状況についても掲載した。	A
市長事務局との連携強化	教育委員と市長との意見交換会の実施回数	1回	5回	2回	市長と教育委員会との協議の場である「大分市総合教育会議」に出席し、意見交換を行うとともに、「大分市教育大綱」に反映させた。	A
教育委員の視察・研修への取組	学校、各種教育施設の視察及び研修会への参加回数	3回	4回	3回	大分県市町村教育委員会連合会総会（6月）、市町村教育委員会研究協議会（11月）、学校、教育施設等への訪問（10月、2月）	A
学校現場の現状把握及び情報収集	学校（園）長とのテーマを決めた教育懇談会の実施回数	1回	4回	4回	教育懇談会を4回実施した。テーマは、「地域との連携について」、「活用する力を身に付けさせる指導の在り方について」、「外国語活動と英語科の導入について」、「次世代育成について」	A

#### <成果と課題（成果● 課題▲）>

●ホームページの充実では、教育委員会の活動において、活動成果が分かるような記載に努めるとともに、教育委員会の会議録の公開や顔写真の掲載など、教育委員会活動の「見える化」を図った。  
 ▲教育委員会の活動をより分かりやすく公開することで、教育委員会の透明性を高めるとともに、教育委員会の運営に対する市民からの理解が深まると考えられることから、今後さらにホームページの充実を図る必要がある。  
 ●地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により設置された、市長と教育委員会との協議の場となる「大分市総合教育会議」に出席し、市長と意見交換を行うとともに市長事務局との連携強化を図った。

#### <今後の取組の方向性及び改善策>

○「大分市総合教育会議」における市長との協議を通じ、教育施策の方向性や課題の共有を図るとともに、市長事務局との連携強化をより一層図りたい。また、平成28年4月より教育委員を1名増員し教育委員会体制を充実させるとともに、教育委員会活動の更なる活性化を図りたい。  
 ○教育委員の視察・研修については、学校施設や教育施設等への視察回数を増やすことができるよう努め、現場の状況や課題の共通理解を図りたい。

具体的な施策	現状・指標の説明	現状	実績	指標	27年度の進捗状況	評価
		22年度	27年度	28年度		
<b>② 教育委員会事務局の組織・機構の整備</b>						
組織の機能や権限の弾力的運用への取組	組織・機構の見直し	一部実施	実施	実施	業務の効率化が図られているか、市民にとって分かりやすい組織体系となっているかどうかについて検証した。	A
行政改革の推進	行政改革推進プランや新NEXT大分構想等に基づく取組	一部実施	実施	実施	学校主事については平成25年度よりエリア制度を導入し、市内4つのエリアそれぞれにエリア長1名、エリア指導員3名を配置している。 給食調理員については、市内3つのエリアそれぞれにエリアチーフ1名・エリアサブチーフ1名と、各学校に職場責任者を配置し、また、業務量に応じた適正な職員配置を行った。	A
<b>&lt;成果と課題（成果● 課題▲）&gt;</b> ●学校主事については、平成25年度から導入しているエリア制度により、市内を4つのエリアに分割し、それぞれのエリアにエリア長1名、エリア指導員3名を配置し、各エリアごとの正規及び非正規職員への業務指導・支援体制を築くとともに、エリアごとの業務研修を実施し、学校主事業務の円滑な運営を維持することができた。 ●給食調理員については、市内3地区それぞれにエリアチーフ・エリアサブチーフ各1名ずつと、各学校に職場責任者を配置して効率的な業務運営に努めるとともに、自主研修等を実施し、調理技術等の向上を図ることができた。 ▲学校主事・給食調理員共に、エリア体制の更なる充実と、正規及び非正規職員の適正な配置をしていくことと併せて、さらなる効率的な業務執行方式の確立を図る必要がある。						
<b>&lt;今後の取組の方向性及び改善策&gt;</b> ○組織・機構の見直しについては、今後も引き続き、業務の効率化を図るとともに、市民にとって分かりやすい組織体系となるよう、市長部局との連携を図り、取り組んでいきたい。また、学校主事・給食調理員共に、エリア体制の更なる充実と、正規及び非正規職員の適正な配置をしていくことと併せて、さらなる効率的な業務執行方式の確立を図りたい。						



## 第Ⅱ章 学識経験者による意見





## 1. 教育委員会の活動及び運営状況

教育委員会の活動は、毎月の定例会議と臨時会議が計 20 回開催され、83 件の審議が行われている。審議事項は、規則の一部改正や条例案・予算案などの議会案件に関する事項等が主である。そのほか、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により設置された、市長との協議調整の場である「大分市総合教育会議」(5 回)へ出席し「教育大綱」を策定している。これらの会議に加え、研修会(2 回)及び学習会(5 回)、教育懇談会(4 回)、学校訪問や行事(8 回)参加も報告されている。

このような精力的な活動は、委員会の運営の確かさと各委員の熱意と意識の高さを証明するものと考えられる。教育現場の実態把握は、日程調整等のご苦勞も推察されるが、委員会と現場をつなぐ重要な活動であり、これらの参加交流を通して各委員の知見が委員会運営にさらに活かされることを期待したい。

## 2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

まず、総合的な観点においては、幼保小連携・アクティブラーニング・キャリア教育・安全教育・情報活用能力・教員の資質向上などを網羅した取組がなされていることが確認できる。施策は、知・徳・体のバランスに配慮され着実に実行されている。その背景として、課題共有と意識の向上が図られていることが推察でき、これらが高い評価結果につながっていると考えられる。点検・評価は、5 つの重点施策について【目標】・【取組の進捗状況】・〈成果と課題〉・〈今後の取組の方向性及び改善策〉の項目で報告されている。【取組の進捗状況】では具体的な施策、指標の説明、実績、進捗状況、評価(A B C D)に成果が整理され、評価に対する根拠が示されている。報告書では、一部常套句の使用により、活動の特色や成果について具体性に欠けアピール度の低い箇所が見受けられることから、活動成果に対する的確な表現の模索が望まれる。

評価結果は、A 評価(84 項目) 85.7%、B 評価(9 項目) 9.2%、C 評価(2 項目) 2.0%、D 評価(2 項目) 2.0%、事業終了(1 項目) 1.0%である。A 評価の前年度比 7.1%アップでは、計画性や実行力の高さを窺い知ることができ、各評価は概ね妥当と考えられる。

各施策では、教育・保育の充実に向けて様々な研修会が開催されている。重点施策 1(1)①「幼稚園教諭と保育士などとの合同研修機会の提供」(P13)は、子ども子育て支援新制度下において時宜を得た研修であり、今後はよりニーズに即した企画が必要になるであろう。また、1(2)④「教職員研修の充実」(P20)においては、大量退職、大量採用という問題に直面し、研修会や公開授業等を通して若手教員の多角的な育成が図られている。教材活用等においても常に先駆的な取組が行われ、若手教員の学ぶ環境も整っていることから指導力向上に期待したい。

1(1)③(P14)では、「一時預かり事業」の試行が報告されている。幼稚園教育要領の改訂に当たっては「幼児の登園から降園までの生活全体を捉えた計画」が求められていることから、今後は一時預かりも視野に入れた計画の試案作成が必要となるであろう。

重点施策 3 個性豊かな文化の創造と発信では、④「大友氏遺跡の保存・活用」(P31)が C 評価となっている。これらは対象によって問題が変容することも考えられ、評価にかかわらず時間をかけて取り組む必要があると考える。また、歴史学習などでは出張展示や副読本の授業への活用等が行われており、さらに、アウトリーチ活動等の手法改善を図りながら活動を通して郷土愛を育んでいくことが望まれる。

## 1. 教育委員会の活動及び運営状況

新教育委員会制度の下、「大分市総合教育会議」を開催し「大分市教育大綱」(平成 28 年 2 月)を策定したことは大きな成果である。大分市教育行政は「大分市教育ビジョン」に掲げられた基本理念の実現に努力することが全体的な目標である。その実現を目指し、教育行政施策が展開されている。形骸化が指摘・批判された教育委員会制度であるが、そのような批判を克服すべく定例、臨時の教育委員会が合計 20 回開催され多くの議案等の審議が行われている。教育委員の研修や校長先生方との教育懇談会の実施、学校訪問や教育施設の視察や各種行事への参加等を通して、教育現場の先生方などの意見を直接聞くことで、教育委員が個人としても、また「教育委員会」としても教育行政施策の展開に積極的に取り組んでいる姿がうかがえる。このような活動結果が、どのようにして教育行政施策に取り入れられているのか、その道筋が少しでも市民に提示されるような方策が望まれる。

## 2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

平成 27 年度「点検・評価」は 98 項目(うち 1 項目は事業終了)に関して行われている。その評価結果の内訳は A 評価 84 項目(85.7%)、B 評価 9 項目(9.2%)、C 評価 2 項目(2.0%)、D 評価 2 項目(2.0%)、事業終了 1 項目(1.0%)である。

昨年度と比較して A 評価項目が 7 項目増えたことは特筆に値する。換言すれば多くの施策は指標達成に向けて段階的に順調に展開されていると思われる。とりわけ大分県の主要課題の一つである学力向上に対しては、教員の授業力の向上を目指し大分市教育委員会事務局の関係各課と大分市教育センターが連携し、教員研修等を質量ともに工夫して行うなど注目すべき取組がみられる。もちろんこのことは一例に過ぎず学力向上施策以外の諸施策の展開においても、随所で関係各部署との連携的取組がなされている。このような連携的取組は、教育行政施策を効果的に実施する上で重要である。大分市教育委員会が大分市教育ビジョン等に基づき取り組むべき活動を十分に踏まえて、主体的に施策を展開する上でもこのような観点は今後さらに深化されるべきと思われる。

なお昨年度も指摘した点であるが、「具体的な施策」の「現状・指標の説明」で、「実施」や「活用」などと表記されている項目があるが、この項目評価には困難を伴う場合があると考えられる。したがって、その場合には「27 年度の進捗状況」を記述する欄や「今後の取組の方向性及び改善策」欄等に、少し具体的に内容を記述する必要があると思われる。そのことが結果的に大分市教育行政の方向性と説明責任を示すことにもつながるといえよう。さらに様々な分野で「調査報告書」等が刊行されているが、このような調査報告書を「出す」というだけで終わらず、どのように活用されているかも追跡調査することが、今後の報告書作成の在り方を検討する際にも重要になるとと思われる。また 26 年度と同じ項目が D 評価になっているので、D 評価になっている施策に関しては早急な改善策の検討が望まれる。

若干の改善すべき点があるとしても、極めて内容の理解のしやすい「点検・評価報告書」であるといえます。「点検・評価報告書」に尽力された関係者に敬意を表します。

## 1. 教育委員会の活動及び運営状況について

平成 27 年度の教育委員会の会議は、定例 12 回、臨時 8 回で審議件数が 83 件。これに研修会 7 回、学校長との懇談会 4 回、委員の個別活動（学校訪問等）など、委員会活動は活発に展開されている。

さらに昨年 4 月から、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正によって、市長と教育委員会が教育大綱や重点施策について意見交換を行う総合教育会議が設置された。総合教育会議は、昨年度は 5 回開催されており、7 月の点検・評価報告会でその内容を市教委に質問したところ、「メインは大分市教育大綱（素案）についてであったが、市長が子供の貧困問題に強い関心を示された」との回答であった。

昨年度までは、市長と教育委員の意見交換会は年 1 回に過ぎなかったが、市長と教育委員との対話の場が新たな制度により増えた。このメリットを活かし、教育行政に市民の声や要望を今まで以上に反映させていくことが期待される。

## 2. 「大分市教育ビジョン」点検・評価について

筆者は、点検・評価への参画は今回で 3 回目だが、大分市教育委員会は、広範な諸施策を P D C A サイクルに乗せて着実に実行していると評価している。27 年度は、全 98 項目中、A 評価 84 項目（85.7%）、B 評価 9 項目（9.2%）、C 評価 2 項目（2.0%）、D 評価 2 項目（2.0%）、事業終了 1 項目（1.0%）であった。これらは市教委の自己評価であるが、目標と実績を比較している点で客観性がある。

成果を出している取組例の一つに、【大分っ子基礎学力アップ推進事業】(P16)があげられる。この事業では「小・中学生の学力検査で全国平均以上の科目割合を 70%以上にする」という目標が設定されている。開始の 22 年度こそ 37.5%であったが、23 年度以降はコンスタントに 80%を上回っており、27 年度は 82.1% (23/28 科目が平均以上) であった。また、【子どもの健康や体力の増進事業】(P17)では、「新体力テストで全国平均以上の種目割合を 60%以上にする」という目標を設定し、27 年度は 73.6%と遂に目標をクリアした。これは開始の 22 年度が 19.0%であったことを考えると飛躍的な伸びである。

これら 2 つの事業に関しては、7 月の報告会において、市教委にこの 5 年間で成果があがってきた原因について質問した。市教委の回答は、「ベテラン教員や専門家による先生方への研修やコーチング、指導用資料の作成・提供などが直接的な原因だろうが、先生方の意識改革が大きい」とのことであった。こうした原因分析や現場の事例を「点検・評価報告書」に記載するのは困難だろうが、“成功から学び、次に活かす”ために別途まとめておくことが望まれる。

最後に課題に触れておきたい。一般に“数値目標”は、成果を客観化・明確化するのに有効であるが、学習者の意識や学習活動の実態（これらも重要である）を把握するには不向きである。今回の報告書で、所々にアンケート調査の結果（学習者の声）や学習活動の写真が掲載されているのは、そうした欠点を補う上で有効であろう。また、大分市教育ビジョンの“数値目標”の多くが行動目標であり、必ずしも成果（アウトカム）ではないことに注意しておきたい。たとえ A 評価と判定されていても、実施や達成の“中身と質”について慎重な吟味が必要である。